

令和6年度事業報告書

令和7年5月
横浜市立みなと赤十字病院

目 次

1 概要	1
1－1 施設概要	
1－2 建物図	
1－3 施設基準取得状況	
2 政策的医療	12
2－1 24時間365日の救急医療及び二次救急医療	
2－2 小児救急医療	
2－3 周産期救急医療	
2－4 精神科救急医療	
2－5 精神科身体合併症医療	
2－6 緩和ケア医療	
2－7 アレルギー疾患医療	
2－8 障害児者合併症医療	
2－9 災害時医療	
2－10 市民の健康危機への対応	
3 指定管理者独自の取組	27
3－1 みなとReborn Project（ブランディングの取組み）	
3－2 みなと救急連携搬送の実施	
4 地域医療の質の向上に向けた取組	31
4－1 医療における安全管理（安全）	
4－2 医療における安全管理（感染）	
4－3 医療倫理に基づく医療の提供	
4－4 地域医療機関との連携・支援（医療連携課）	
4－5 地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）	
4－6 市民委員会	
4－7 治験・受託研究	
4－8 患者・市民に対する相談・啓発活動	
4－9 患者サービス	
4－10 医療データベースの構築と情報提供	

5 職員研修	63
5－1 職員研修（医師）	
5－2 職員研修（看護部）	
5－3 職員研修（薬剤部）	
5－4 職員研修（医療技術部門）	
5－5 職員研修（事務部）	
6 院外からの研修受入れ	74
6－1 院外からの研修受入れ（医師）	
6－2 院外からの研修受入れ（看護部）	
6－3 院外からの研修受入れ（薬剤部）	
6－4 院外からの研修受入れ（リハビリテーション科部）	
6－5 院外からの研修受入れ（救命救急センター）	
7 職員	80
7－1 組織図	
7－2 職員配置状況	
8 施設管理	83
8－1 医療機器の整備状況	
8－2 施設設備改修報告	
8－3 施設設備管理報告	
8－4 外部委託	
9 経営報告	89
9－1 稼働状況等報告	
9－2 中央部門業務報告	
9－3 決算書	

1 概要

1－1 施設概要

1 名称

横浜市立みなと赤十字病院

2 開設者

横浜市長（指定管理者として日本赤十字社が運営）

3 開設年月日

平成 17 年 4 月 1 日

4 病床数

634 床（一般 584 床、精神 50 床）

5 標榜科

内科（総合内科・感染症科）、内分泌内科（糖尿病内分泌内科）血液内科、腎臓内科、リウマチ科（膠原病リウマチ内科）、緩和ケア内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、脳神経内科、アレルギー科、精神科、小児科、外科、消化器外科、大腸外科、肝臓外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科（耳鼻咽喉科・頭頸部外科、めまい平衡神経科）、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

以上 36 科

6 沿革

- ・平成 15 年 3 月 横浜市立病院あり方検討委員会（横浜市長の諮問機関）が新病院を公設民営とする最終答申を提出
- ・平成 15 年 9 月 横浜市会で新病院運営の公設民営化を決定
- ・平成 15 年 11 月 横浜市が指定管理者評価委員会を設置
- ・平成 16 年 1 月 日本赤十字社が指定管理者提案申込書を横浜市に提出評価委員会が提案書による競争の結果として、「指定管理者として日本赤十字社がふさわしい」との評価報告書を市長に提出
- ・平成 16 年 2 月 横浜市会で日本赤十字社を指定管理者として決定
- ・平成 16 年 9 月 横浜市会で新病院名称を「横浜市立みなと赤十字病院」に決定

- ・平成 17 年 4 月 横浜市立みなと赤十字病院が開院
初代院長 西岡 清
病床数 584 床、23 診療科
瀬谷区にあった横浜市小児アレルギーセンター（平成 17 年 3 月 31 日閉院）の機能を移転
- ・平成 18 年 4 月 精神科診療開始（入院は平成 19 年 5 月から）
- ・平成 18 年 9 月 地域医療機関向け広報誌「みなとからの風」発刊
- ・平成 19 年 3 月 病院機能評価 Ver5.0 取得
- ・平成 19 年 5 月 精神科 50 床運営開始、病床数 634 床
- ・平成 19 年 7 月 新潟県中越沖地震発生、救護班派遣
- ・平成 21 年 2 月 地域医療支援病院承認
- ・平成 21 年 4 月 救命救急センターの指定
- ・平成 22 年 3 月 神奈川県DMA T 指定病院
- ・平成 22 年 7 月 第 2 代院長 四宮 謙一 就任
- ・平成 23 年 3 月 東日本大震災発生、救護班・神奈川DMA T 派遣
災害備蓄倉庫竣工
- ・平成 23 年 5 月 病院広報誌「みなと赤十字病院だより」発刊
- ・平成 23 年 11 月 がんセンター、がん相談支援センター開設
- ・平成 24 年 3 月 病院機能評価 Ver6.0 取得
- ・平成 24 年 4 月 地域がん診療連携拠点病院の指定
- ・平成 24 年 7 月 地域周産期母子医療センターの認定
- ・平成 24 年 11 月 病院広報誌リニューアル、「みんなのみなと」発刊
- ・平成 25 年 1 月 PET／CT導入
- ・平成 25 年 4 月 標榜科を 23 診療科から 36 診療科へ細分化
- ・平成 26 年 2 月 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」導入
- ・平成 26 年 3 月 神奈川県DMA T-L 指定病院
- ・平成 26 年 11 月 海難事故や災害時に、当院ヘリポートの使用を第三管区海上保安本部と合意
- ・平成 27 年 4 月 臨床試験支援センター開設
リハビリテーションセンター開設
外傷センター開設
心臓病センター開設
- ・平成 27 年 9 月 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨発生、
救護班・神奈川DMA T 派遣
- ・平成 27 年 10 月 カスタマーリレーションセンター開設
新MRI導入 (PHILIPS 社製 Ingenia 3.0T CX)
- ・平成 28 年 4 月 平成 28 年 4 月熊本地震発生、救護班派遣

- ・平成 28 年 5 月 東京国際空港（羽田空港）大韓航空機火災事故に救護班を派遣
- ・平成 29 年 3 月 病院機能評価（一般病院 2 3rdG : Ver1.1）取得
- ・平成 29 年 4 月 第3代院長 野田 政樹 就任
入院支援センター開設
- ・平成 29 年 6 月 人間ドック健診施設機能評価の認定を取得
- ・平成 30 年 2 月 横浜市乳がん連携病院に指定
- ・平成 30 年 4 月 ハイブリット手術室 稼動開始
DPC 特定病院群に指定
入院支援センターを入退院支援センターに組織変更
- ・平成 30 年 9 月 北海道胆振東部地震発生、救護班派遣
- ・平成 30 年 10 月 神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院に選定
- ・平成 31 年 2 月 特定行為研修指定研修機関に指定
- ・平成 31 年 4 月 神奈川県難病医療支援病院に指定
- ・令和元年 6 月 第4代院長 伊藤 宏 就任
- ・令和元年 9 月 京急線・トラック衝突事故に神奈川DMAT 派遣
令和元年台風第 15 号災害発生、千葉県に救護班派遣
- ・令和 2 年 1 月 がんゲノム医療連携病院に指定
- ・令和 2 年 2 月 新型コロナウイルス感染症に係るクルーズ船対応にDMAT 派遣
- ・令和 2 年 9 月 JMPI（外国人患者受入れに関する認証制度）の認証を取得
- ・令和 2 年 12 月 横浜市認知症疾患医療センターに指定
- ・令和 3 年 7 月 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会時の大会関係者受入れ
- ・令和 4 年 9 月 病院機能評価 一般病院 2 3rdG:Ver. 2.0 / 高度専門機能「救急医療・災害時の医療」Ver. 1.0 認定
- ・令和 5 年 4 月 第5代院長 大川 淳 就任
- ・令和 5 年 5 月 JCEP（卒後臨床研修評価機構）の認証を取得
- ・令和 5 年 9 月 JMPI Ver2.1 更新
消化器病センター開設
- ・令和 5 年 12 月 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」導入
能登半島地震発生、救護班等派遣
- ・令和 6 年 1 月 羽田空港航空機衝突事故発生、救護班派遣

1－2 建物図

屋上	ヘリポート
8階	病棟 コンシェルジュデスク
7階	A 病棟 B 病棟 C 病棟 D 病棟
6階	A 病棟 B 病棟 C 病棟 D 病棟 患者図書室
5階	A 病棟、C 病棟、D 病棟、NICU、透析室、化学療法センター、精神科外来、めまい・平衡神経科外来、理容室、スキルラボ
4階	電気室・機械室
3階	救急病棟、ICU、HCU、手術室、心臓カテーテル室、院長室、副院長室、看護部長室、事務部長室、医局、医局図書室、看護部、事務部、会議室
2階	健診センター、ブレストセンター、アレルギーセンター、緩和ケア病棟、リウマチ科外来、放射線科（X線撮影、血管造影、CT、MRI、心臓カテーテル）、内視鏡検査室、検査部（輸血、病理、細菌、検体）、調度課・SPD、MEセンター、栄養課、感染管理室
1階	<p>[各診療科外来]</p> <p>総合内科（内科、内分泌内科、血液内科、感染症内科）</p> <p>消化器病センター（消化器内科、外科）、心臓病センター（循環器内科・心臓血管外科）、脳神経センター（脳神経内科・脳神経外科）、麻酔科、呼吸器病センター（呼吸器内科・呼吸器外科）、整形外科、泌尿器科、皮膚科、腎臓内科、耳鼻いんこう科・頭頸部外科、眼科、小児科、産婦人科、形成外科、歯科口腔外科、リハビリテーション科</p> <p>総合案内、中央待合ホール、医療連携センター（療養・福祉相談室、がん相談支援センター、認知症疾患医療センター）、入退院支援センター</p> <p>栄養指導室、初診受付、再診受付、再来受付コーナー、処方箋FAXコーナー、文書受付、自動精算機、保険証確認窓口、会計窓口、薬剤部</p> <p>中央検査（採血、尿検査、心電図、超音波、筋電図、脳波）</p> <p>救急外来（入口、受付、診察室、処置室、X線撮影、CT室）</p> <p>正面入口、時間外入口（警備室）、緩和ケア病棟入口、コンビニエンスストア、ATM、カフェ、防災センター</p>
B1階	放射線科（RI、リニアック、PET/CT）、地下出入口、地下駐車場、霊安室
B2階	免震ピット

施設基準届出状況一覧

【基本診療料】

令和7年3月31日現在

届出名称	
地域歯科診療支援病院歯科初診料	ハイリスク分娩管理加算
歯科外来診療医療安全対策加算2	精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
歯科外来診療感染対策加算4	呼吸ケアチーム加算
歯科診療特別対応連携加算	術後疼痛管理チーム加算
一般病棟入院基本料（急性期一般1）	後発医薬品使用体制加算1
急性期充実体制加算	病棟薬剤業務実施加算1
注2 小児・周産期・精神科充実体制加算	病棟薬剤業務実施加算2
救急医療管理加算	データ提出加算2
超急性期脳卒中加算	入退院支援加算1
診療録管理体制加算2	認知症ケア加算1
医師事務作業補助体制加算2（25対1）	せん妄ハイリスク患者ケア加算
急性期看護補助体制加算（25対1加算5割以上）	精神疾患診療体制加算
注2 夜間100対1急性期看護補助体制加算	排尿自立支援加算
注4 看護補助体制充実加算1	地域医療体制確保加算
看護職員夜間配置加算（12対1加算1）	地域歯科診療支援病院入院加算
療養環境加算	救命救急入院料1
重症者等療養環境特別加算	注2 精神疾患診断治療初回加算
無菌治療室管理加算1	注3 救急体制充実加算1
緩和ケア診療加算	注6 小児加算
精神科応急入院施設管理加算	注9 早期栄養介入管理加算
精神病棟入院時医学管理加算	特定集中治療室管理料1
精神科身体合併症管理加算	注1 算定上限日数に関する基準
摂食障害入院医療管理加算	注2 小児加算
栄養サポートチーム加算	注4 早期離床・リハビリテーション加算
医療安全対策加算1	注5 早期栄養介入管理加算
感染対策向上加算1	ハイケアユニット入院医療管理料1
注2 指導強化加算	注3 早期離床・リハビリテーション加算
患者サポート体制充実加算	注4 早期栄養介入管理加算
重症患者初期支援充実加算	小児入院医療管理料3
報告書管理体制加算	緩和ケア病棟入院料1
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	精神科救急・合併症入院料
ハイリスク妊娠管理加算	短期滞在手術等基本料1
医療情報取得加算	

【特掲診療料】

届出名称	
ウイルス疾患指導料	移植後患者指導管理料（臓器移植後）
外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
糖尿病合併症管理料	椎間板内酵素注入療法
がん性疼痛緩和指導管理料	緊急穿頭血腫除去術
がん患者指導管理料イ	癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）
がん患者指導管理料ロ	脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
がん患者指導管理料ハ	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
がん患者指導管理料ニ	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便過活動膀胱）
外来緩和ケア管理料	緑内障手術（緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術
糖尿病透析予防指導管理料	緑内障手術（濾過胞再建術（needle法））
小児運動器疾患指導管理料	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
婦人科特定疾患治療管理料	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
腎代替療法指導管理料	内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）、内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術
二次性骨折予防継続管理料1	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）
二次性骨折予防継続管理料3	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
下肢創傷処置管理料	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴うもの））
慢性腎臓病透析予防指導管理料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
地域連携小児夜間・休日診療料2	食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎孟）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
地域連携夜間・休日診療料	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
院内トリアージ実施料	胸腔鏡下弁形成術
夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算1	胸腔鏡下弁置換術

外来放射線照射診療料	経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮の大動脈弁置換術）
外来腫瘍化学療法診療料 1	経皮的僧帽弁クリップ術
注8 連携充実加算	不整脈手術 左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）
注9 がん薬物療法体制充実加算	不整脈手術 左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）
ニコチン依存症管理料	経皮的中隔心筋焼灼術
開放型病院共同指導料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ハイリスク妊産婦共同管理料（Ⅰ）	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
がん治療連携計画策定料	両心室ペースメーカー移植術（心筋電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（心筋電極の場合）
外来排尿自立指導料	両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
ハイリスク妊産婦連携指導料 1	植込型除細動器移植術（心筋リードを用いるもの）及び植込型除細動器交換術（心筋リードを用いるもの）
肝炎インターフェロン治療計画料	植込型除細動器移植術（経動脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経動脈電極抜去術
薬剤管理指導料	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（心筋電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（心筋電極の場合）
医療機器安全管理料 1	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
医療機器安全管理料 2	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
医療機器安全管理料（歯科）	経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
精神科退院時共同指導料2	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
歯科治療時医療管理料	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
救急患者連携搬送料	腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）	腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））
遺伝学的検査	腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
骨髄微小残存病変量測定	腹腔鏡下胃全摘術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））
BRCA1／2遺伝子検査	腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
がんゲノムプロファイリング検査	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術

先天性代謝異常症検査	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
H P V核酸検出及びH P V核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	胆管悪性腫瘍手術（脾頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	体外衝撃波胆石破碎術
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液）	腹腔鏡下肝切除術
検体検査管理加算（I）	体外衝撃波胆石破碎術
検体検査管理加算（II）	腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
遺伝カウンセリング加算	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	内視鏡的小腸ポリープ切除術
胎児心エコー法	腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
ヘッドアップティルト試験	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
脳波検査判断料1	膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
単線維筋電図	生体腎移植術
神経学的検査	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
補聴器適合検査	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
小児食物アレルギー負荷検査	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
内服・点滴誘発試験	膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）
有床義歯咀嚼機能検査1のイ	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	腹腔鏡下仙骨臿固定術
画像診断管理加算1	腹腔鏡下仙骨臿固定術（内視鏡手術用支援機器を用いた場合）
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影（アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。）	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
CT撮影及びMRI撮影	体外式膜型人工肺管理料
冠動脈CT撮影加算	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
心臓MRI撮影加算	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1

外来化学療法加算 1	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
無菌製剤処理料	周術期栄養管理実施加算
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）	輸血管理料Ⅰ
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）	輸血適正使用加算
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
がん患者リハビリテーション料	歯周組織再生誘導手術
歯科口腔リハビリテーション料2	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
通院・在宅精神療法の注11に規定する早期診療体制充実加算	歯根端切除手術の注3
認知療法・認知行動療法1	麻酔管理料（Ⅰ）
抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	注5 周術期薬剤管理加算
医療保護入院等診療料	麻酔管理料（Ⅱ）
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	注2 周術期薬剤管理加算
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	放射線治療専任加算
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）	外来放射線治療加算 高エネルギー放射線治療
硬膜外自家血注入	1回線量增加加算
エタノールの局所注入（甲状腺）	画像誘導放射線治療（IGRT）
エタノールの局所注入（副甲状腺）	体外照射呼吸性移動対策加算
人工腎臓	定位放射線治療
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	病理診断管理加算1
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	悪性腫瘍病理組織標本加算
手術用顕微鏡加算	クラウン・ブリッジ維持管理料
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	看護職員処遇改善評価料
ストーマ合併症加算	外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）	入院ベースアップ評価料
画像診断管理加算2	外傷全身CT加算
小児鎮静下MRI撮影加算	乳房MRI撮影加算
腹腔鏡下肺腫瘍摘出術	

【その他】

入院時食事療養（Ⅰ）	酸素の購入単価
------------	---------

【保険外併用療養費】

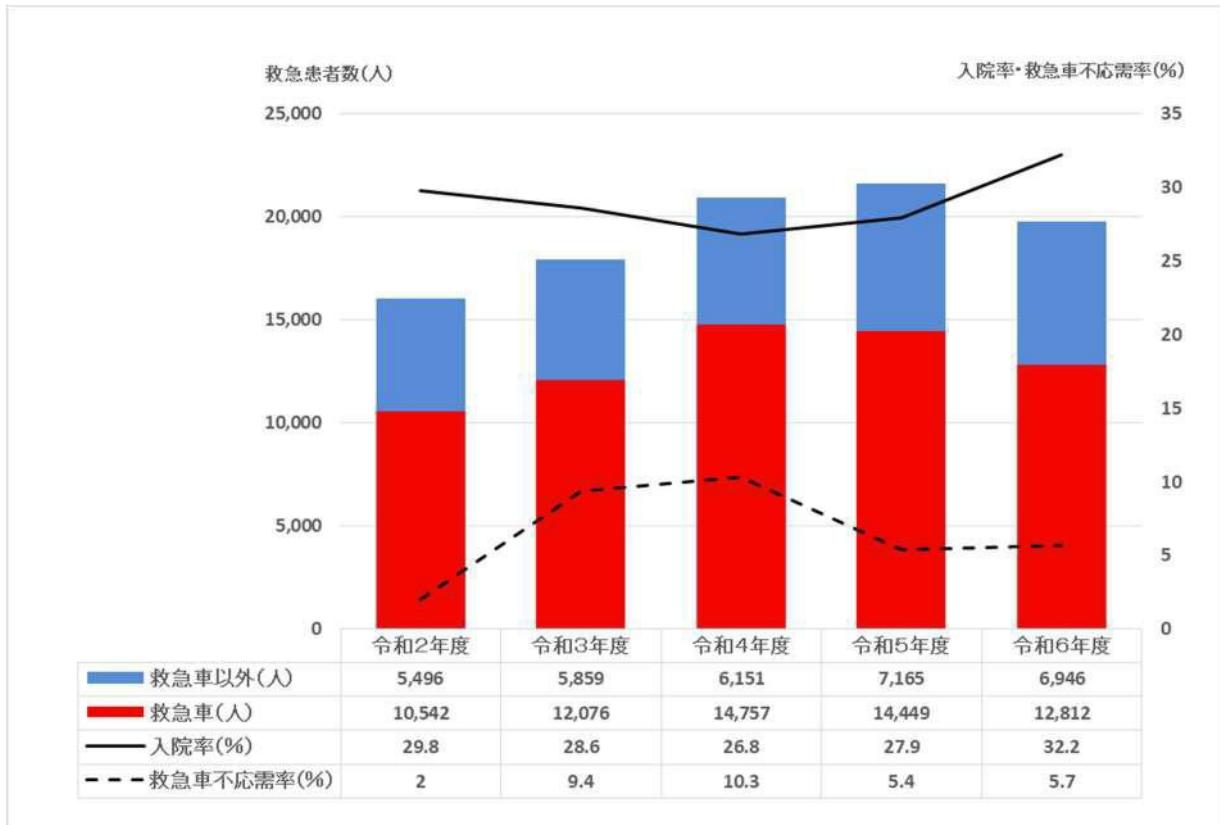
入院医療に係る特別の療養環境の提供	特定機能病院、地域医療支援病院及び紹介受診重点医療機関の再診
特定機能病院、地域医療支援病院及び外来機能報告対象病院の初診	入院期間が180日を超える入院

2 政策的医療

2-1 24時間365日の救急医療及び二次救急医療

1 データ

来院経路別救急患者数と入院率・救急車不応需率



2 成果

令和6年度の救急車による受入患者数は12,812名であり、前年度から11%減少した。救急車受入要請の不応需率は、前年度とほぼ同じ5.7%（779人）であった。一方、救急患者全体の入院率は32.2%と前年度より4.3%増加した。重症患者の受入要請が増加したものと考えられる。

令和6年も全国救命救急センター充実段階評価において、最上位のS評価（全国で102施設、横浜市内で7施設）を受け、7年連続のS評価となった。引き続き、救命救急センターの質の向上に努めていきたい。

3 課題

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症も一息ついたところであったが、冬場にインフルエンザ感染症の入院患者が増加し、横浜市内全体で救急搬送が逼迫した時期があった。当院も空床がなくなり救急患者の受入を制限した時期が生じた。今後も当分は増加が続く高齢者を中心とした救急搬送にいかに対応するかは、当院のみならず今後の地域全体の医療提供体制の課題である。

救命救急センター発足以来の懸案であった当院の救急外来部門の狭隘問題は、令和7年度中の拡張再整備を予定している。

2-2 小児救急医療

1 データ・成果

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小児科救急患者数	1,353人	1,947人	2,330人	2,100人
うち、入院患者数	167人	323人	365人	438人
救急車受入件数	652件	1,161件	1,159件	1,016件
新入院患者数	703人	852人	967人	1,169人
虐待防止対策委員会 (旧:児童虐待防止委員会)	定例会2回 臨時3回	定例会2回 臨時3回	定例会2回 通告6件	定例会2回 通告6件

新型コロナウイルス5類移行後、感染症の流行が持続し、近隣小児病床の閉鎖もあり受診、入院ともに増加している。しかし、小児人口の減少は加速しており、今後、救急患者数は減少していくものと推測する。

地域の小児救急患者には適切に対応している。

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
新生児搬送受入数	4	4	7	7

神奈川県周産期医療体制整備計画等により横浜市内のNICUは充足している。また、総合周産期母子医療センター（基幹病院）のNICU増床もあり、基幹病院で受入困難な新生児搬送は減少している。基幹病院のNICUに余裕があるため基幹病院から中核病院へのバックトランシスファーも減少していると考えられる。平成29年度にNICU加算2の要件を満たせず同算を取り下げたことにより看護体制が手薄になり、新生児科医の不在により更に受入れが難しくなるなど悪循環となっている。

地域では支援が必要な家庭は増加していると推定されている。不適切な療育が疑われる受診には、医療社会事業課を通じ、在住区への情報提供を行っている。

2 課題

予防接種の普及、少子化による小児急性期疾患の患児は、今後、減少していくものと予想される。小児科における24時間、365日の小児救急対応に必要な小児科医師数には変わりはないが、患者数の減少による収益減少への対応が課題である。また、当院だけでなく広域な小児救急医療体制の再考が必要になってくる。

2－3 周産期救急医療

1 データ

周産期救急医療は主に母体搬送や新生児搬送であるが、妊娠中の卵巣嚢腫茎捻転、虫垂炎、頭蓋内疾患、感染性疾患もときにある。また、未受診妊婦のいわゆる飛び込み分娩、自宅分娩なども含まれる。更に精神疾患、身体疾患合併妊婦の受け入れも医療連携として必要時に応需しており、これは広義の周産期救急に当たる。

当院の周産期担当（産婦人科、小児科）は「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という目標を掲げ、診療にあたっている。

平成 24 年 7 月 25 日付で当院は地域周産期母子医療センターに指定され、産科と小児科（NICU）の協力のもと、他の産科施設からの母体搬送の受け入れを中心として、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる医療施設として横浜市の周産期医療の一翼を担っている。

なお、母体搬送受け入れの基準は妊娠 34 週以降、推定体重 1,500g 以上としている。

<母体搬送受け入れ数>

2021 年度	13 件
2022 年度	5 件
2023 年度	5 件
2024 年度	9 件

<母体搬送数>

2021 年度	6 件
2022 年度	13 件
2023 年度	10 件
2024 年度	17 件

<分娩総数>

2021 年度	566 件
2022 年度	554 件
2023 年度	532 件
2024 年度	540 件

	救急患者数	救急車受入	入院患者数
2021 年度	563	81	348
2022 年度	519	78	335
2023 年度	472	71	324
2024 年度	428	68	287

2 成果

分娩総数は減少傾向から下げ止まったと思われる。

産科は 24 時間 365 日の体制で当直・オンコール体制を組み、緊急手術もいつでも対応できる体制をとっている。これには、産科、小児科のみならず、救急外来、手術室、麻酔科、他科も協力の上で成り立っていることである。

「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という、事業目標はおおむね達成していると考える。

3 課題

ハイリスク妊娠の対応が当院の重要な役割であり、日々体制の充実をはかる責務がある。母体搬送の受入だけではなく三次救急医療指定機関でもあり、母体救命への応需も拡大できる可能性がある。この実現にも多分野の連携、充実が不可欠である。

当院の周産期医療の特色として、早期から無痛分娩導入していたこと、助産師外来、セミオープンシステムによる地域連携での周産期管理が挙げられる。無痛分娩については徐々に普及が始まっている状況であり、当院の強みを活かすには院内では麻酔科、看護部など各部門との連携のさらなる強化をはかり、また、顔の見える医療連携を強化することにより周産期医療の質の向上、満足度の向上を図りたい。

2－4 精神科救急医療

1 データ

令和6年度実績

	受入れ数		入院形態			転帰		
	受診数	入院数	措置	医保	任意	転院	退院	その他
3次救急	23	18	18	0	0	12	6	0
2次救急	8	6	—	6	0	4	2	0

精神科救急受診数の推移（年度別）

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
3次救急	34	37	32	24	29	27	22	20	23
2次救急	14	11	8	7	8	6	6	8	8

2 成果

- ・実施要項に準じて人員を配置し、精神科救急医療を滞りなく行えた。
- ・政策医療とは別に、自殺企図例などで救急病棟より精神科病棟に入院する例も多い。

3 課題

- ・精神科救急医療を掲げているが、実際は身体合併症がある精神科救急患者が選択的に送られてくる問題がある。また、そのような身体合併症があるケースの後方転送が滞る状況が依然続いている。
- ・基幹病院は待機拘束時間が多い割に受入れ患者数は少なくシステムの効率が悪い。救急システムの在り方について各基幹病院、後方病院、行政を交えて意見交換をし、改正していく時期に来ているが動きはない。
- ・救急部を受診したが身体的な問題ではなく、精神症状のみ入院適応がある患者がいる。当院の精神科病棟が満床の場合に、受入れ先の調整に苦慮することがある。
- ・精神保健福祉法、特に23条通報に関する警察の理解ならびに診察命令を出す行政の理解認識と現場の感覚にずれがあり、自傷他害のおそれが高くて通報がされず現場での対応に困ったり、通報されても措置診察にならずソフト救急に乗ってくるなどの問題点があるため基幹病院、行政、警察の定期的な意見交換が必要である。

2－5 精神科身体合併症医療

1 データ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
3 病院入院数	56	67	61
当院受入れ数	65	59	59
当院入院数	48	53	57
平均在院日数	21.3	17.8	21.6
転帰	依頼元病院	41	47
	他病院	4	3
	退院	1	1
	入院中	1	0
	死亡	1	2

2 成果

- 平成20年度以降、当院の年間の受入れ数は身体合併症転院事業の7～8割にあたるが、令和6年度も入院総数の8割以上を受け入れることができた。
- この他、時間外に行政を介さずに受け入れた症例もある。

3 課題

- 引き続き、身体科医師の協力体制のもとで同事業を円滑に進める。
- 保護室が必要な症例に関して、精神科救急ベッドの空床状況によっては受け入れが困難になる場合がある。

2-6 緩和ケア医療

1 データ

(1) 緩和ケアチーム実績

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
緩和ケアチーム への依頼数	新規	187件	180件	171件
	継続	7件	9件	7件
	延べ件数	3027件	2735件	3467件

緩和ケアチームへの依頼内容

疼痛・嘔気・呼吸困難などの身体ケア 97%
せん妄・抑うつ・不眠などの精神的ケア 3%

(2) 緩和ケア専門外来実績

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
初診	6件	10件	6件
再診	81件	108件	154件
延べ件数	87件	118件	160件

緩和ケア専門外来への依頼内容

疼痛 100%

(3) 緩和ケア病棟実績

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入院患者数	休床中	休床中	205件
入院相談外来数	—	—	341件
平均在院日数	—	—	18.1日

2 成果

- ・入院患者への緩和ケアについて、緩和ケアチームが介入を行うことで院内の多職種連及び地域との連携を促進することができた。
- ・心不全をはじめとする非がん患者への緩和ケア介入も積極的に対応を行った。
- ・外来化学療法室、放射線治療室と緩和ケアチームが情報を共有し、治療内容や時期に応じた緩和ケアの提供や意思決定支援を行った。

- ・緩和ケアの質の向上のため、緩和ケア研修会を令和 5 年 12 月に開催した。
- ・連携病院と協働し、地域の医療・介護福祉職を対象に「みんなの緩和ケア勉強会」を令和 7 年 3 月に実施し、地域における緩和ケアの啓発・普及を行った。
- ・緩和ケアやアドバンスケアプランニングについて、地域のケアプラザや市民公開講座での啓発・普及を行った。
- ・緩和ケア病棟を再開し、地域からの患者受け入れをはじめ、院内外のがん終末期の療養の場としての役割を担っている。

3 課題

- ・苦痛のスクリーニングにより患者の苦痛のアセスメントを早期から行う風土を維持し、病棟と外来とのシームレスな連携を推進することで、質の高い意思決定支援及び緩和ケアの提供を行えるよう努める。
- ・地域の医療機関との緊密な情報連携を通して、患者への切れ目のない緩和ケア医療の提供に繋げる。
- ・令和 6 年 4 月から緩和ケア病棟を再開しており、質の高い緩和ケアの提供に当たりスタッフの教育・研修を充実させていく。
- ・緩和ケア病棟再開について近隣医療機関及び地域への周知をさらに強化し、利用の促進を図る。
- ・がん患者へのアドバンスケアプランニングについて、地域を巻き込んだ教育・普及を行い、療養の場としての機能も担うことで地域包括ケアシステムの推進に貢献する。

2－7 アレルギー疾患医療

1 データ（令和2年度～令和6年度比較）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
外来アレルギー患者数（延べ数）	21,600人	20,128人	20,514人	20,789人	19,992人
呼気一酸化窒素測定	1,958件	1,530件	1,904件	2,305件	1,313件
気道過敏性試験	0件*	0件*	0件*	1件	7件
プリックテスト	215件	152件	119件	108件	74件
エピペン処方数	547件	528件	582件	609件	687件
喘息カンファレンス	0回*	0回*	6回	6回	6回
食物・薬物アレルギーカンファレンス	0回*	2回	6回	6回	6回
食物アレルギー研修	21回	63回	51回	25回	32回
講演会	1回	1回	1回	1回	1回
みなとセミナー	1回	1回	1回	1回	2回
市民フォーラム	0回*	1回	1回	0回*	0回*
患者教室	0回*	8回	8回	8回	10回
小児喘息キャンプ	0回*	0回*	0回*	0回*	0回*
誌上発表	23件	14件	7件	7件	4件
学会発表	29件	27件	13件	9件	9件
新薬開発治験	8件	5件	5件	13件	17件
自主臨床試験	7件	1件	4件	13件	12件

* 新型コロナウイルス感染予防のため中止

2 成果

保育所や学校等からの相談、市民への情報提供、啓発活動が継続して行えるよう、対面だけではなく、動画配信やリモートを併用し実施した。

近年増えつつある食物アレルギー患者、アナフィラキシーの既往のある患者については、当院救急部からの入院患者や、地域の医療機関からの紹介も増え、エピペン処方・指導数は増加している。

臨床研究については、継続中のARMS研究（遠隔医療）とEARTH研究（環境アレルギー）の組み合わせによる「個別喘息予報」を平成28年度より配信開始し、患者の個別データをさらに活用できるよう取組を進めている。

平成30年10月に選定された神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院として、神奈川県および川崎市からのアレルギー疾患政策医療への協力要請にも対応している。

以前に設置済の大型アレルギー検査機器は令和5年10月から稼働し、院内で特異的IgE抗体検査を行えるようになった。これにより以前よりも早く検査結果が出るようになっている。今後項目数を順次増やしていく予定である。

また、令和6年度の新たな取り組みとしては、地域のアレルギーケアに関する医療従事者・施設勤務者対象に、当院と他医療機関の小児アレルギーエデュケーターが主催の「アレルギーケア研修会」（みなとセミナー）を行った。アレルギー診療従事者の現場の悩みや疑問へのアドバイスや意見交換の場とし

て今後も継続予定である。

3 課題

日本専門医機構の新専門医制度では、未だアレルギー専門医の認定が始まっていないが、引き続きアレルギー科、呼吸器内科、皮膚科、耳鼻咽喉科、リウマチ内科のアレルギー専門医・指導医、リウマチ専門医・指導医の確保と育成に努めることにより市民の需要に応えていく。

また、従来からの患者個々に作成している食物日誌をもとにアプリを作成し、PHR(personal health record)として運用開始予定である。(令和7年度5月開始) 将来的には本院に通院患者情報をビッグデータ化し、診療のみならず臨床研究に結びつける可能性も模索していきたい。

2-8 障害児者合併症医療

1 データ

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
入院患者延べ人数	37名	292名	444名	475名
入院患者実人数	4名	9名	9名	13名
1患者あたり 入院回数	1~4回	1~3回	1~4回	1~5回
年齢	7~30歳	3~31歳	3~32歳	4~33歳
メディカルショートステイ利用者数	5名	4名	4名	7名
障害児者委員会	年2回 開催	年2回 開催	年2回 開催	年2回 開催

2 成果

当院において行われる障害児者への医療提供が円滑に行われることを目的とし、障害児者医療検討委員会を開催し、その内容を検討した。また、重度心身障害児者の理解を深めるため、障害児者医療検討委員会発信で、メディカルショートステイについてのポスターを作成し、広報活動を行った。

3 現状と課題

障害児者医療への職員の研修啓発に努めるとともに、地域の障害児者医療を担う医療機関との連携を図りながら、横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの協力病院として対象患者の受入れを継続する。

2-9 災害時医療

1 救護活動等の状況

(1) 医療救護班等の派遣状況

横浜救急医療チーム（YMAT）の出動状況

横浜市内の救急・事故事案等に5件出動

(2) 災害救護に関する訓練・研修会等への実施・参加状況

ア 当院主催訓練・研修

- ・横浜市立みなと赤十字病院総合防災訓練 1回 33人
- ・救護車両運転訓練 2回 3人

イ 赤十字関連訓練・研修

- ・救護班主事基礎研修 1回 7人
- ・救護班要員教育訓練 1回 9人
- ・救護員としての赤十字看護師養成研修 3回 75人
- ・こころのケア研修 3回 27人

ウ 行政等主催訓練・研修

- ・九都県市総合防災訓練 1回 7人
- ・大規模地震時医療活動訓練 1回 33人
- ・神奈川県災害時通信訓練 11回 17人
- ・防災行政通信網受電訓練 3回 3人
- ・神奈川県原子力災害医療基礎研修 1回 1人
- ・神奈川県災害時医療救護活動研修会 1回 7人
- ・大規模集客施設を使用した集団救急訓練 1回 8人
- ・大規模テロ災害対応訓練 1回 8人

エ 他団体、他機関主催訓練・研修

- ・航空機事故対処総合訓練 1回 7人
- ・DMAT 隊員養成研修 2回 2人
- ・神奈川 DMAT-L 隊員養成研修 2回 5人
- ・かながわ DPAT 隊員養成研修 1回 4人
- ・DMAT 技能維持研修 2回 2人
- ・DMAT ロジスティックチーム隊員養成研修 1回 1人
- ・かながわ DPAT 技能維持研修 1回 4人
- ・関東ブロック DMAT 訓練 1回 6人
- ・第三級陸上特殊無線技士 2回 2人
- ・フォークリフト操縦資格 2回 2人
- ・テールゲートリフター 1回 3人

(3) 救護体制及び主要資機材

ア 医療救護班

- ・救護班 7班 (医師 7人、看護師 21人、薬剤師 7人、主事 14人)

- ・日本DMA T3 チーム^{注1}（医師 6 人、看護師 10 人、業務調整員 3 人）
- ・神奈川DMA T－L3 チーム^{注2}（医師 7 人、看護師 8 人、業務調整員 9 人）
- ・かながわD P A T 隊員 12 人（医師 1 人、看護師 9 人、業務調整員 9 人）
- ・Y M A T（横浜救急医療チーム） 隊員 33 人（医師 16 人、看護師 17 人）

※注1：日本DMA Tのチーム数は、日本DMA T活動要領の「DMA T 1 隊の構成は、医師 1 人、看護師 2 人、業務調整員 1 人の 4 人」に基づき、同時に編成が可能なチーム数。

※注2：神奈川DMA T－Lのチーム数は、神奈川DMA T－L運営要綱の「医師、看護師、業務調整員からなる 1 チーム 5 人編成を基本とする。」に基づき、各職種最低 1 人以上で同時に編成が可能なチーム数。

イ 救護資機材等

救急車 2 台、救援車両 3 台、救護班用医療セット 1 式、DMA T 標準医療資機材 1 式、Y M A T 資機材 1 式、日赤業務無線機等 25 台、神奈川県M C A 無線 1 台、横浜市M C A 無線 1 台、衛星電話 1 台（宿舎設置）、衛星携帯電話 2 台、（可搬型 1 台、救急車積載 1 台）、横浜市衛星 Wi-fi 装置 1 台、デジタル個人線量計 28 台、簡易ベッド 540 台、N B C 災害除染セット 1 式、ドラッシャーテント 1 式、エアーテント 1 式、イージーアップテント 5 式、発動発電機 6 台、大容量ポータブル蓄電池 2 台、下水直結型災害用トイレ 5 基、患者用非常食 3 日分、職員用非常食 3 日分

2 成果

- ・災害に係る各種隊員養成研修に参加し、日本DMA T、神奈川DMA T－L、かながわD P A T、Y M A T（横浜救急医療チーム）の隊員を増員することができ、災害や救急への対応がより強固となった。
- ・災害に係る訓練や研修会に積極的に参加し、災害時に必要な技能の維持や新しい知識などを習得することができた。

3 課題

災害時に関係機関が連携して活動するためには、日頃から顔の見える関係を築いておくことが重要と言われている。

当院でも関係機関との訓練、研修、会議等を通じ、日頃から地域の関係者と顔の見える関係を構築し、災害時には災害拠点病院としての機能を発揮して地域の災害医療の貢献できるよう取り組んできた。

首都直下地震や南海トラフ地震対策強化や近年増加している局所的な水害などの対応などと並行していかに地域や機関と連携をしていくか、また、人材の育成や技能の維持向上について関係機関と共に検討する。

2-10 市民の健康危機への対応

1 データ・成果

(1) 新型コロナウイルス感染症（C O V I D-19）対応

横浜市立病院として高度医療機関、協力病院の指定のもと、市中発症の新型コロナウイルス感染症の患者対応を行ってきたが、2023年5月から5類感染症となった後も入院患者の受入れにあたっては、重症患者はI C U・H C Uで、中等症患者は一般床で入院受け入れを適宜行った。

院内のC O V I D-19によるクラスター発生はなかった。

(2) 新型インフルエンザ等対策等

抗インフルエンザ薬について、院内での抗インフルエンザ薬使用状況を考慮し、薬剤ごとの備蓄割合（薬局備蓄含む）を再検討した。

2 課題

5類感染症となった新型コロナウイルス感染症対応は、流行状況を加味しながら、平時の医療として対応していくが、同室者などで感染事例が起こり得るため、クラスター発生に留意する必要がある。

新型インフルエンザ等対策訓練等については、横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会等と連携して、必要に応じて資器材・抗インフルエンザ薬の整備・備蓄を進める。

3 指定管理者独自の取組

3 - 1 みなと Reborn Project（ブランドティングの取組み）

1 データ

(1)背景

当院は横浜市立港湾病院と横浜赤十字病院の機能を継承する形で2005年4月に開院し、救急医療、災害医療、高度専門医療提供する病院として、機能を拡充してきた。2020年の新型コロナウイルス感染症では、歴史的災害に対し地域の多くの入院患者を受け入れ地域拠点病院の役割を全うしたが、その一方で医業収支は悪化し、地域医療機関との関係も希薄化、職員にも大きな負担がかかった。

開院20年を迎える、さらなる発展を目指すため、当院の地域における役割を明確化し、それらを発信、共有する活動、つまりブランドティング活動を開始することとした。

(2)Reborn Project 始動

2023年6月に、広報推進室を立ち上げ、患者、職員、地域医療機関へのインタビューや、自院の資源、近隣病院の機能を調査した。さまざまな分析を行い、そのデータをもとに、2024年2月にブランド策定ワークショップを開催し、当院のあるべき姿、目指す姿について議論した。

現状分析・ワークショップで見えてきた2つのキーワードは、“守る”と“つなぐ”であった。救急、災害、高度専門医療。職員一人ひとりの高い技術力と、診療科の垣根を越えたチーム医療で人々の緊急時の命を「守る」ことは、みなとの使命であり、これまで積み重ねてきた確かな強みであること。そして、救急車受け入れ、医療連携はもちろん、患者さんの日々、職員の心を「つなぐ」こと、そして、みなとのさまざまな魅力を「つなぐ」ことは、今までそしてこれから伸ばすべき強みであること。

新しいみなと赤十字病院のブランドスローガンは、「もしもを守る。いつもへつなぐ。」とし、キービジュアル、ブランドムービーそして、ホームページに反映した。

その他、様々な取り組みを行い、現在インナーブランディングを強化している。

2 実績

(1)ブランドコアのビジュアル化

言語化されたブランド価値を視覚的に訴求するため、ブランドスローガンに想いを載せたブランドメッセージ、職員が出演するブランドキービジュアル（ポスター、HP、MV）、ブランドガイドライン作成等を行った。

(2)ブランド浸透ワークショップ

ブランドコアを自分の領域で体現するかを100人規模の職員によるワークショップで議論した。また、同ワークを利用して、ブランドプロミスを策定した。



KV 展開（スター）



左：KV 展開（Web サイト TOP バナー） 右：KV 展開（ムービー）

3 課題

横浜市立みなと赤十字病院のブランド構築の礎は完成しが、職員にブランドを浸透、自分ごと化していくことが直近の課題である。中長期的には、当院の思いを医療関係者と共有し、地域一体となったチーム医療を行うことで、様々な地域医療課題克服につなげていきたい。

3－2 みなと救急連携搬送の実施

1 背景

令和6年6月の診療報酬改定で、三次救急医療機関等に救急搬送された患者について連携する他の医療機関でも対応可能と判断する場合に、連携する他の医療機関に看護師等が同乗の上で転院搬送する場合、外来受診から入院3日目まで段階的に評価される「救急患者連携搬送料」が新設されることとなり、当院でも算定に向け、救急救命士採用と合わせてワーキングを発足した。

(新) 救急患者連携搬送料

1 入院中の患者以外の患者の場合	1,800 点
2 入院中1日目の患者の場合	1,200 点
3 入院中2日目の患者の場合	800 点
4 入院中3日目の患者の場合	600 点

2 運用について

(1) 救急救命士採用

搬送業務を考慮し、当院で初めて病院救急救命士の導入を決め、委託会社と当院採用の救急救命士、計3名の採用を決定。

(2) みなと救急連携搬送フローの作成

搬送システムの名前を「みなと救急連携搬送」とし、医師、看護師、救急救命士、医療社会事業課等、他職種と運用の検討、見直しを1年間で5回実施。また、搬送先の受入実績や対応可能な疾患をとりまとめ、搬送先の選定がスムーズに行えるように、他職種で情報共有の工夫に入れた。

(3) 協定の締結

フロー作成と同時に、医療社会事業課が中心となり搬送先の病院へ協定の締結を依頼し、1年間で18施設が協定締結した。

3 実績（令和6年5月～令和7年3月）

- (1) 協定締結・・・18施設
- (2) 搬送実績・・・151件

4 課題

- (1) 協定数の増加
- (2) 院内救命士の増員
- (3) 搬送実績の増加

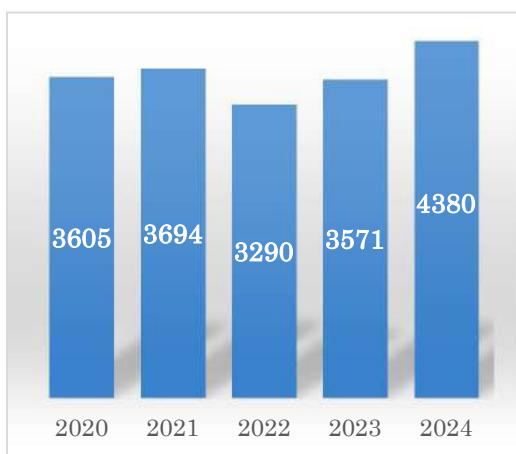
4 地域医療の質の 向上に向けた取組

4－1 医療における安全管理（安全）

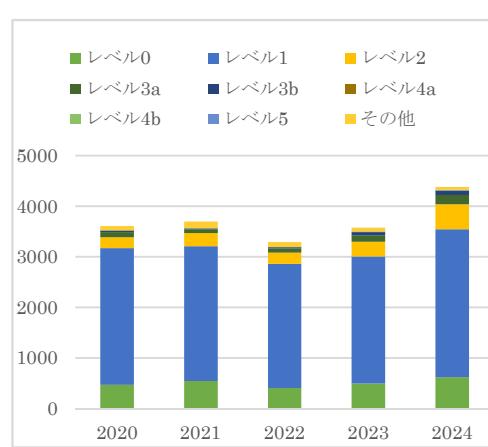
1 データ

- (1) 令和6年度のインシデントレポート報告件数は4,380件であった。インシデントレポート年間報告件数は前年度より809件増加し、全レベルにおいて増加した。
- (2) レベル3b以上の報告件数は104件となり、23件増加した。特に、ドレン・チューブ、療養上の世話が増加した。
- (3) 項目別では薬剤、ドレン・チューブ、療養上の世話の順で多く、いずれも過去5年間で最多となった。
- (4) 職種別では医師、看護師の報告数は1.3倍、放射線技師からの報告が約2倍に増加した。

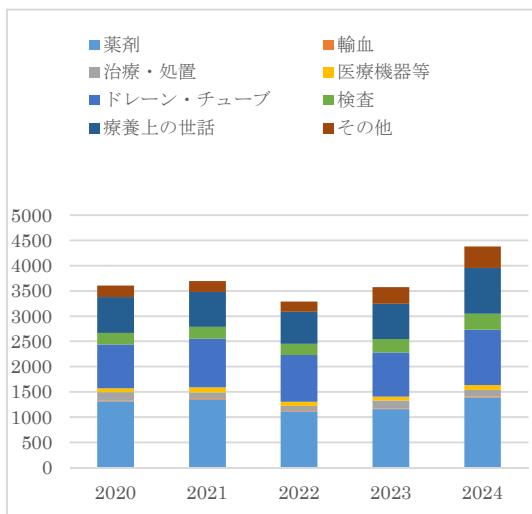
■ 年度別総報告数



■ レベル別報告



■ 項目別報告数



■ 職種別報告



2 成果

- (1) 医師によるレベル 3b 以上の報告数は 56 件であり前年度の件数を維持している。治療・処置等の合併症報告が適切になされていた結果と考える。
- (2) 医療安全管理委員会と RM 委員会は、毎月 1 回開催した。
- (3) 医療事故調査・支援センターへの報告を 1 件実施した。
- (4) 患者影響度の高い事例に関する事例検討会を年 11 回開催した。
- (5) M&M カンファレンスを 1 件実施した。
- (6) コードハリーメディカルラリー（急変対応研修）を 1 回実施した。
- (7) 令和 6 年度全職員対象安全研修会を 2 回実施した。第 1 回目は対面式での研修、第 2 回は対面式とオンライン併用とした。当日参加できなかった職員はフォローアップ研修を実施。参加率は、それぞれ 100% であった。
- (8) 医療職対象医薬品医療機器安全研修会を 1 回実施した。
- (9) 新任 RM 対象の安全研修会を全 8 回開催した。
- (10) 安全管理マニュアルを令和 6 年 5 月に改訂した。
- (11) 全職員に対する医療安全情報の提供を目的とした医療安全 News の定期発行を開始し、全 12 回発行した。
- (12) 令和 6 年度の RRS-I の起動総件数は 132 件であった。運用マニュアルの平日当直帯・休日の PHS 担当者を、RRS-I 担当医師から救急外来事務に変更し院内周知した。PHS 担当者変更により連絡システムの効率化が図れ、より迅速に現場に駆け付けられる体制となった。
- (13) 令和 6 年度の RRS-II の起動総件数は 40 件であった。令和 6 年 7 月より、重症患者を早期に察知するための院内ラウンド (CCT ラウンド) を開始した。ラウンド開始前の RRS-II 起動回数は月平均 1.7 件であったが、開始後は月平均 3.9 件に増加した。
- (14) CVC チームでは、ライセンス制度の運用マニュアルを再検討し、CVC 挿入時のタイムアウトの実施とチェックリストの導入を開始した。
- (15) 報告書管理チームでは、放射線、病理レポートの未読防止対策として未読レポートの追跡と、確認状況をフィードバックした。未確認レポートが多い診療科へは 14 日以内の確認を徹底するよう注意喚起を行った。
- (16) インシデントレポート活用チームでは、毎月レベル 0 事例の中から、次のレベル (アクシデント等) に至らなかつたレポートを取り上げ、要因分析と未然防止対策を検討した。毎月、最も重要度の高い事例を “thank you レポート賞” とし、令和 6 年度は 12 名の事例報告者を表彰した。
- (17) モニターアラーム対応適正化チームによる生体モニターアラーム対応の現状調査と分析を実施し、各部署へフィードバックした。
- (18) 与薬、転倒・転落に関する定期調査を実施した。

3 課題

- (1) マニュアル等の更新と周知徹底
- (2) 医師によるインシデントレポート報告件数の増加
- (3) 転倒・転落による患者影響レベル 3b 以上のアクシデント減少
- (4) 放射線、病理未読レポートの減少
- (5) レベル 0 事例を活用したインシデント未然防止の推進
- (6) 患者誤認防止対策の強化
- (7) RRS-II の周知と活用推進

4－2 医療における安全管理（感染）

1 データ

抗菌薬適正使用支援

(1) 介入件数および受託率

年度	2021	2022	2023	2024
介入件数（件）	146	225	462	913
受諾（%）	111（76）	182（81）	381（82）	770（84）
一部受諾（%）	12（8）	8（3）	27（6）	66（7）
拒否（%）	16（11）	30（13）	51（11）	77（10）
その他（%）	7（5）	5（2）	3（1）	0（0）

(2) 転帰

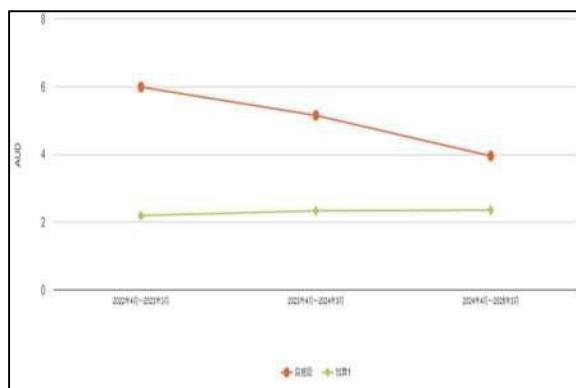
年度	2021	2022	2023	2024
介入件数（件）	122	171	451	628
退院・転院（%）	113（93）	152（89）	400（89）	560（89）
死亡（%）	9（7）	19（11）	51（11）	68（11）

(3) ピペラシリン・タゾバクタムのAUDおよびDOT（3年推移）

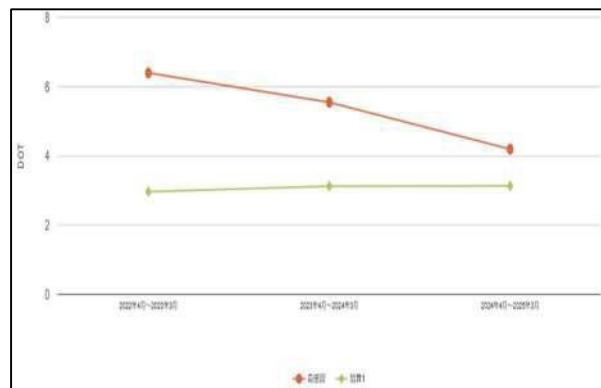
【期間：2022年04月～2025年03月】表示対象：自施設 比較対象：加算1

AUD：（使用量÷規定1日投与量）÷在院患者延数×100、DOT：使用日数÷在院患者延数×100

【抗菌薬使用密度:AUD】



【抗菌薬使用日数:DOT】



全職員対象感染研修会実施状況

	第1回(7月)	第2回(2月)
テーマ	感染対策の概論/標準予防策 コロナワクチンとインフルエンザ	平時から取り組む感染対策について ・標準予防策と経路別予防策 ・当院における抗菌薬使用状況の報告
受講率	100%	100%

2 成果

(1) 平時の感染管理

- ・感染制御チームにより院内巡回を年間 50 回実施した。部署の問題点を明らかにし、改善に向けて取り組みを行った。
- ・院内すべての職員に対して感染研修会を実施した。

(2) サーベイランス

- ・厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)検査部門サーベイランスに参加している。感染症発生動向を監視し耐性菌検出時は、タイムリーに現場の感染対策を確認できており、アウトブレイクを起こさなかった。
- ・医療関連感染サーベイランスを実施し、日常的に感染症の発生状況を把握した。ベンチマークデータを他施設と比較し感染対策の改善に向けて活動した。

(3) 地域連携

- ・感染対策向上加算Ⅱ・Ⅲ、外来感染対策向上加算連携施設と 4 回/年の合同カンファレンスを実施し感染症におけるトピックスを連携施設へ情報提供することができた。また、新興感染症を想定したレクチャーとして防護具着脱訓練を行った。
- ・連携施設を現地訪問(4 回/年)し、感染対策ラウンドを実施した。連携施設が抱える感染対策上の問題点について検討し改善につなげることができた。
- ・感染対策向上加算Ⅰの同規模病院と相互ラウンドを行い自施設の感染対策を見直す機会とした。

(4) 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)

- ・当院の現状として特にピペラシリン・タゾバクタムの使用量および投与日数が他施設と比較し高値であったため、開始 4 日目以上の症例に対し早期介入を行い、AUD および DOT は低下傾向となった。
- ・AST がバンコマイシンの治療薬物モニタリング(TDM)を担う体制 (AST-TDM)を 2022/8~開始し、院内で定着してきた印象あり。これらの影響もあり、AST 介入件数は 2023 年度と比較して倍増した。
- ・受諾率は 9 割を超える、転帰は変化しなかった。
- ・感染対策連携共通プラットフォーム(J-SIPHE)のデータ登録を 2023/4 より開始し、院内での抗菌薬使用量などの評価を開始し院内での共有ツールとして活用した。また連携施設にも登録を呼びかけ、診療所版 J-SIPHE(OASCIS)の登録を勧め地域連携カンファレンスでも活用した。

3 課題

- (1) 標準予防策・感染経路別予防策周知徹底のため職員教育を継続して行う。
- (2) 地域連携を継続して行い、地域の感染管理活動に貢献する。
- (3) 手指衛生推進を図り遵守率を向上させる。
- (4) J-SIPHE のフィードバックデータを活用し、感染対策の質向上に努める。
- (5) 電子カルテリプレイスに伴い広域抗菌薬(ピペラシリン・タゾバクタム、レボフロキサン注)も届出対象へ移行するため、その他の抗菌薬も含めた使用の動向を確認していく。

4－3 医療倫理に基づく医療の提供

1 データ

令和4年度・令和5年度 医療倫理委員会実績

	令和4年度	令和5年度
検討数	80件	93件
開催回数	第1回 5月6日～5月20日 第2回 7月1日～7月15日 第3回 9月2日～9月16日 第4回 10月21日～11月4日 第5回 12月16日～1月5日 第6回 2月17日～3月3日 ※全て文書審議にて開催	第1回 4月21日～5月10日 第2回 6月30日～7月14日 第3回 9月1日～9月15日 第4回 10月20日～11月2日 第5回 12月22日(対面審議) 第6回 2月16日～2月26日 第7回 2月27日～3月5日 ※第5回以外、文書審議にて開催
開催日等 (参加人数)		

令和6年度医療倫理委員会実績 検討数 98件

開催日 (参加人数)	NO	議題	結果
第1回医療倫理委員会 4月19日～4月26日 (文書審議)	1	モルヒネ投与が困難あるいは投与中にせん妄などが発生した患者を対象としたナルベインの使用について	承認
	2	冠攣縮誘発試験の対象となる患者へのメチルエルゴメトリンの使用について	承認
	3	PET/CTがんドックの有用性の検討	承認
	4	病室で取り組む自主トレーニングについて～オンデマンドを取り入れ見えてきた成果と今後の課題～	承認
	5	高齢がん患者における免疫チェックポイント阻害薬の安全性と高齢者機能評価との関連	承認
	6	”臥床患者の体重測定に用いるスケールベッドと荷重センサーを用いた体重計との計測の比較分析－臥床患者の体重を簡便に測定できる体重計の活用に向けて－”	承認
	7	多職種気管切開チームが、ICUで気管切開術を施行された重症患者の転帰に与える影響	承認
	8	緊急手術における術前ストーマサイトマーキングは早期ストーマ合併症とストーマ管理困難を減じるか。	承認
	9	間質性肺炎患者における経過の解析と疾患関連遺伝子の探索	承認

第2回医療倫理委員会 6月28日 ～7月8日 (文書審議)	10	バンコマイシン注における当院ノモグラムの有用性の評価	承認
	11	PONV 術中予防投与プロトコルの導入と薬剤師による介入が PONV 発生率へ及ぼす影響	承認
	12	抗菌薬適正使用支援チーム (AST) 薬剤師によるバンコマイシン注の TDM に関するタスクシェア体制の構築とその付加価値	承認
	13	”「SATAKE・HotBalloon カテーテル使用持続性心房細動患者に対する全国観察研究」”	承認
	14	”RAS 野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI+セツキシマブと FOLFOXIRI+ベバシズマブの最大腫瘍縮小率 (DpR) を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験 (JACCRO CC-13)』”	承認
	15	臨床倫理委員会規程の標準化について	承認
	16	閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼灼術	承認
	17	”癌性疼痛に対するオピオイド持続皮下注射の患者に対する持続皮下注射針の変更”	承認
	18	急性下肢動脈閉塞に対する血栓吸引	承認
	19	経皮的中隔心筋焼灼術での冠動脈内投与を目的とした無水エタノール「フソー」の使用について	承認
	20	超音波造影剤を自作することを目的としたビタジェクト A 液の使用について	承認
	21	超音波造影剤を自作することを目的とした低分子デキストラン L の使用について	承認
	22	意思決定支援ワーキンググループのチーム化について	承認
	23	適切な意思決定支援に関する指針の策定について	承認
	24	病院外心停止に対する包括的治療体制の構築に関する研究	承認
	25	EFAT-2 日本語版の反応性についての検討	承認
	26	各種めまい疾患と vHIT (video Head Impulse Test) 検査結果による臨床的検討	承認
	27	未治療多発性骨髄腫に対する初回治療後の自家末梢血幹細胞移植に関する後方視的観察研究	承認
	28	日本人における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関する重症化因子の探索 一多施設共同後ろ向き観察研究一	承認

	29	下部消化管内視鏡検査における横行結腸挿入困難例に対する右側臥位の浸水法の有用性の検討	承認
	30	口腔乾燥感を有する患者に対する口腔潤滑ジェル：キュオムウェットプラスの効果に関する研究	承認
	31	抗菌薬適正使用支援チーム（AST）薬剤師によるバンコマイシン注のTDMに関するタスクシェア体制の構築	承認
	32	心室頻拍に対する植込み型除細動器の新規抗頻拍ペーシング治療（Intrinsic ATP）の有用性についての検討（特定臨床研究に関する利益相反状況について）	承認
	33	心室頻拍に対する植込み型除細動器の新規抗頻拍ペーシング治療（Intrinsic ATP）の有用性についての検討（特定臨床研究に関する実施について）	承認
	34	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブにTACE療法を追加することの有効性を検証する多施設共同第III相臨床研究	承認
	35	令和6年度脳死判定医リストの作成について	承認
第3回医療倫理委員会 8月30日～9月6日 (文書審議)	36	Physician modified endograft for endovascular aortic replacement	承認
	37	横浜市における新型コロナウイルス感染症第8波時の救急搬送困難に関する多施設後方視的観察研究	承認
	38	単一遺伝子異常による糖尿病の成因、診断、治療に関する調査研究	承認
	39	悪性リンパ腫の予後に関する多施設共同後方視的研究	承認
	40	化学療法歴のあるHER2低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツズマブデルクステカンの多機関共同前向き観察研究	承認
	41	"POLARxTM 心臓冷凍バルーンアブレーションシステム 市販後臨床研究 POLAR SMART"	承認
第4回医療倫理委員会 10月25日～11月4日 (文書審議)	42	意思決定能力の低い患者の治療方針について	承認
	43	骨・関節・軟部組織感染症を対象とした持続局所抗菌薬灌流の導入について	承認
	44	子宮良性疾患を対象とした腹腔鏡下腔式子宮全摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）の導入について	承認
	45	心囊水制御のための心膜瘻着術におけるブレオマイシンの使用について	承認
	46	皮膚筋炎性間質性肺炎に対するリツキシマブの使用について	承認

	47	骨軟部組織・インプラント感染症の治療および予防を目的としたゲンタマイシン及びアルベカシンの使用について	承認
	48	腎生検で診断の得られた足細胞陷入糸球体症の疾患概念の確立と臨床像および病理学的特徴の検討	承認
	49	病室で取り組む自主トレーニングについて～変形性膝関節に対する人工膝関節置換術後の患者を対象としたオンデマンドの成果と今後の課題～	承認
	50	腹膜透析患者における治療モダリティーが睡眠に与える影響	承認
	51	当院アレルギーセンターにおける約10年間の成人食物アレルギー症例の検討	承認
	52	同時多項目アレルギー検査用体外診断用医薬品の開発	承認
	53	横浜市における新型コロナウイルス感染症第8波時の救急搬送困難に関する多施設後方視的観察研究	承認
	54	化学療法歴のあるHER2低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツズマブデルクステカンの多機関共同前向き観察研究	承認
	55	化学療法歴のあるHER2低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツズマブデルクステカンの多機関共同前向き観察研究	承認
	56	化学療法歴のあるHER2低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツズマブデルクステカンの多機関共同前向き観察研究	承認
	57	化学療法歴のあるHER2低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツズマブデルクステカンの多機関共同前向き観察研究	承認
	58	同時多項目アレルギー検査用体外診断用医薬品の開発	承認
第5回医療倫理委員会 12月23日 ～1月15日 (文書審議)	59	”患者の職場の上司はキーパーソンになり得るか。上司が介護者として自主退院を希望した場合に病院としてこれを認めることができるか。	承認
	60	電気痙攣療法の麻醉同意取得において電話、郵送でのやりとりが可能か	承認
	61	経尿道的水蒸気治療(Rezium)の導入について	承認
	62	再発性毛嚢炎(MRSA皮膚感染症)に対するブリーチバース療法の導入について	承認
	63	胃癌に対するロボット支援下胃切除術の導入について	承認

	64	腎孟尿管移行部狭窄に対するロボット支援腎孟形成手術の導入について	承認
	65	急性薬物中毒患者のコロナ流行前後における年代、性別、原因薬剤の比較	承認
	66	敗血症患者における人工呼吸器抜管後の嚥下障害とICU 入院時筋肉量の関連	承認
	67	腹部ステントグラフト内挿術 (EVAR) 後 type2 エンドリーチによる瘤径拡大の危険因子の解析	承認
	68	糖尿病患者における冠動脈石灰化と相關する項目の検討	承認
	69	心房細動治療における左肺静脈共通幹に対するバルーンサイズ 28mm と 31mm でのクライオバルーンアブレーションの治療成績の比較	承認
	70	高齢がん患者における免疫チェックポイント阻害薬の安全性と高齢者機能評価との関連	承認
	71	抗菌薬適正使用支援チーム薬剤師によるバンコマイシン注の薬物血中濃度モニタリングに関するタスクシフト・シェア体制の構築とその有用性評価	承認
	72	一般社団法人日本脳神経外科学会データベース研究事業 (Japan Neurosurgical Database) に関する研究	承認
	73	RAS 野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI +セツキシマブと FOLFOXIRI +ベバシズマブの最大腫瘍縮小率 (DpR) を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験 (JACCRO CC-13)	承認
	74	RAS 野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI +セツキシマブと FOLFOXIRI +ベバシズマブの最大腫瘍縮小率 (DpR) を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験 (JACCRO CC-13)	承認
	75	「SATAKE・HotBalloon カテーテル使用持続性心房細動症例に対する全国観察研究	承認
	76	「常染色体顕性多発性囊胞腎に対するペマフィブレートの腎機能低下抑制効果に関する無作為化比較試験	承認
第6回医療倫理委員会 2月16日 ～2月26日 (文書審議)	77	経皮的僧帽弁交連切開術 (PTMC)	承認
	78	Pulse Field Ablation	承認
	79	カテーテルアブレーション術後の止血	承認
	80	経静脈的塞栓術	承認
	81	経静脈的塞栓術に対するONYX の使用について	承認

	82 リツキシマブ（対象疾患：関節リウマチ、関節リウマチ関連間質性肺炎）	承認
	83 急性前骨髄球性白血病の自家移植前処置薬としてのブルファン（ブルフェクスR点滴静注用）の使用について	承認
	84 気道熱傷におけるヘパリンの使用について	承認
	85 假性動脈瘤発生時の経カテーテル治療に対するトロンビンの使用について	承認
	86 瘫瘍調査「口腔がん登録」	承認
	87 末梢神経障害の神經伝導検査所見に関する検討	承認
	88 神奈川県みらい未病コホート研究	承認
	89 当院におけるロボット支援下/腹腔鏡下仙骨膿固定術の検討	承認
	90 当院における超音波内視鏡関連処置における治療成績	承認
	91 当院での免疫チェックポイント阻害薬を投与した肺がん症例における抗菌薬投薬の影響	承認
	92 公的医療保険の種別などによる急性心血管疾患の臨床経過・予後の比較	承認
	93 免疫チェックポイント阻害薬投与患者における救急外来受診の実態調査	承認
	94 2017年に外科治療を施行された肺癌症例のデータベース研究（肺癌登録合同委員会 第10次事業）	承認
	95 当院ICU入室患者の退院時転帰に関する因子の検討	承認
	96 0.81mmガイドワイヤーを用いた超音波内視鏡下胆囊ドレナージ術(EUS-GBD)の有用性	承認
	97 乳がん手術における腋窩リンパ節郭清施行患者の浮腫発症関連因子の検討	承認
	98 化学療法歴のあるHER2低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツズマブデルクステカンの多機関共同前向き観察研究	承認

2 成果

- ・例年通りに自主臨床研究審査委員会からの申請が全て報告事項であったため、全 6 回開催のうち、全てをメールによる文書審議の形で開催した。
- ・臨床研究法及び院内手順に則り、実施施設にて必要な院長の承認及び報告手続きを行い、管理者に報告した。
- ・臨床倫理委員会の下部組織として昨年度組織した「意思決定支援ワーキンググループ」を今年度はチーム化し、取り組みを強化した。
- ・適切な意思決定支援に関する指針を策定した。
- ・自主臨床研究審査委員会の事務局業務を円滑化するため、倫理審査システムの導入を決定した。

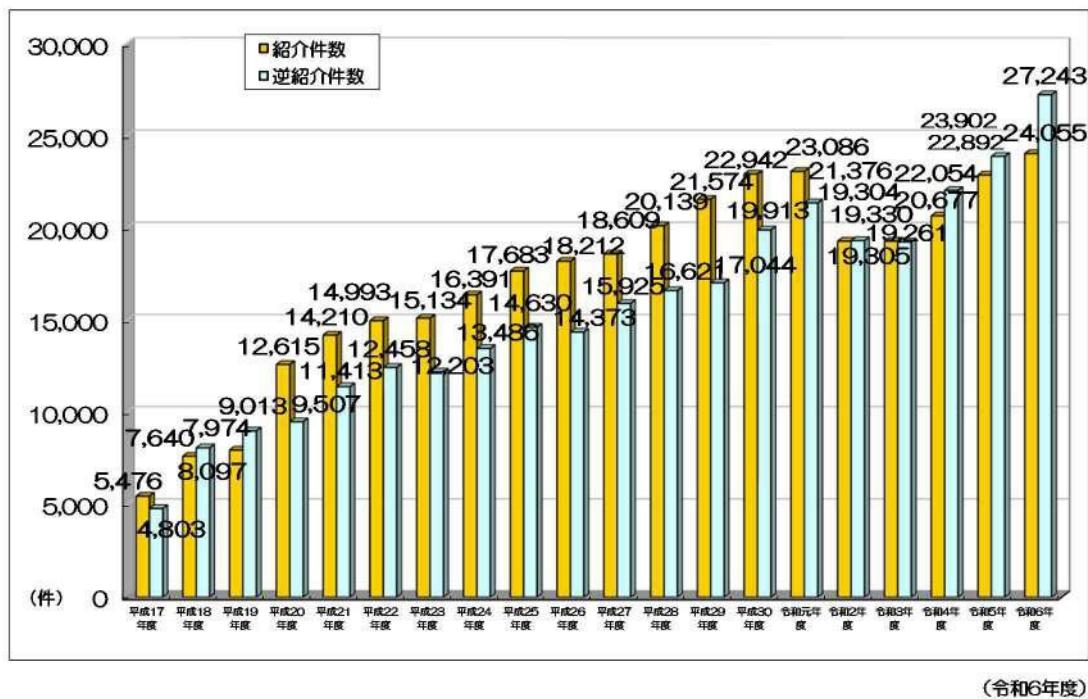
3 課題

- ・臨床倫理に関する研修会の受講率向上。
- ・倫理審査システムの円滑な導入と効果的な運用。
- ・臨床倫理問題が発生した際の多職種カンファレンスのさらなる周知と実施。
- ・心肺停止や急変時にかかる院内の Code 記載の統一。
- ・海外渡航移植に関する病院としての方針等に関する倫理的検討。

4-4 地域医療機関との連携・支援（医療連携課）

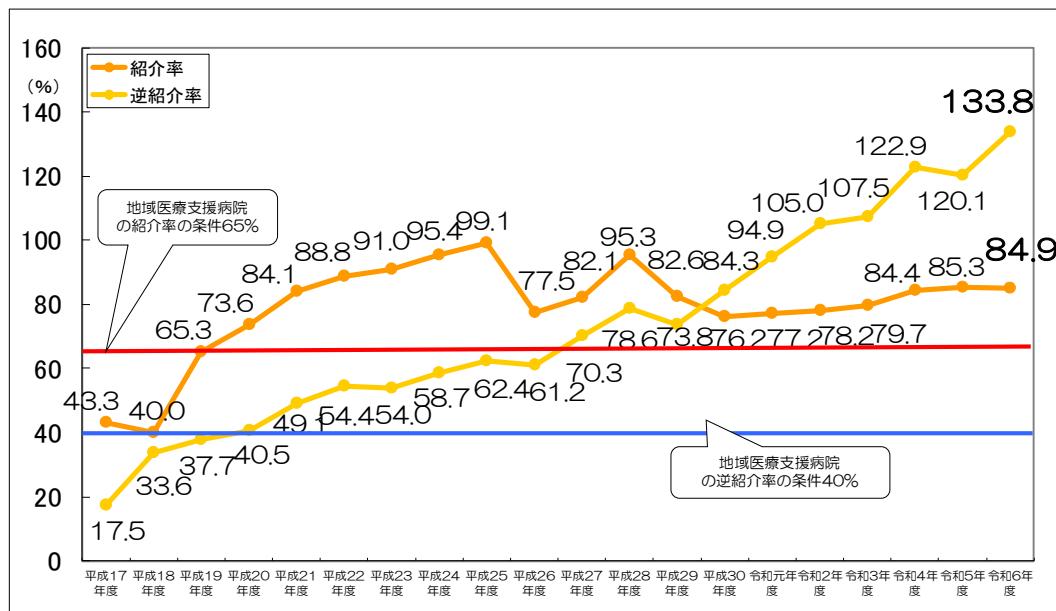
1 データ

紹介件数・逆紹介件数年度推移



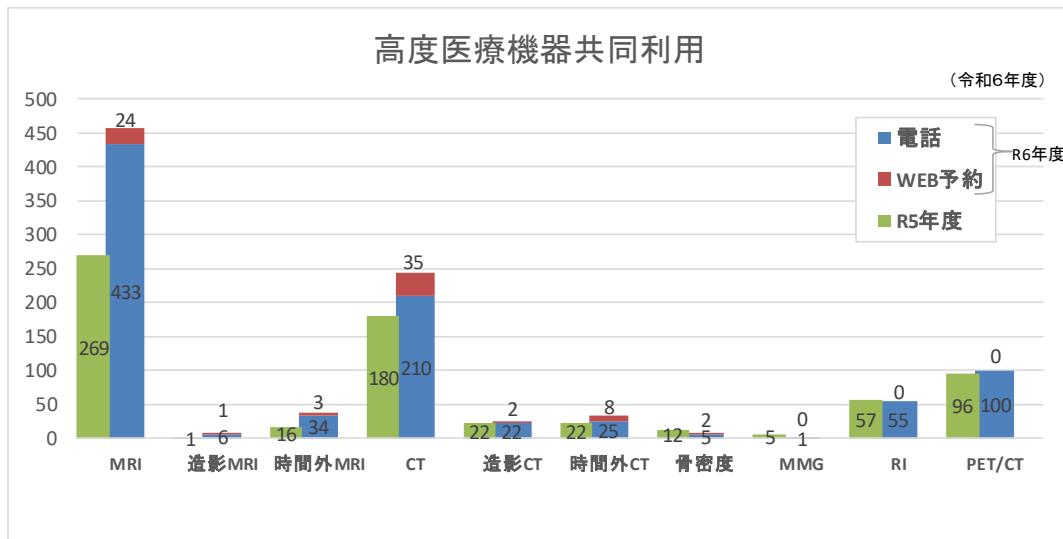
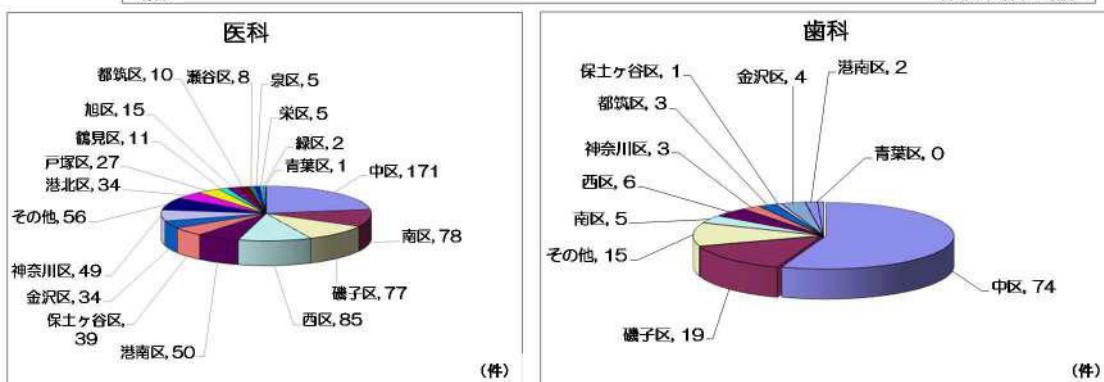
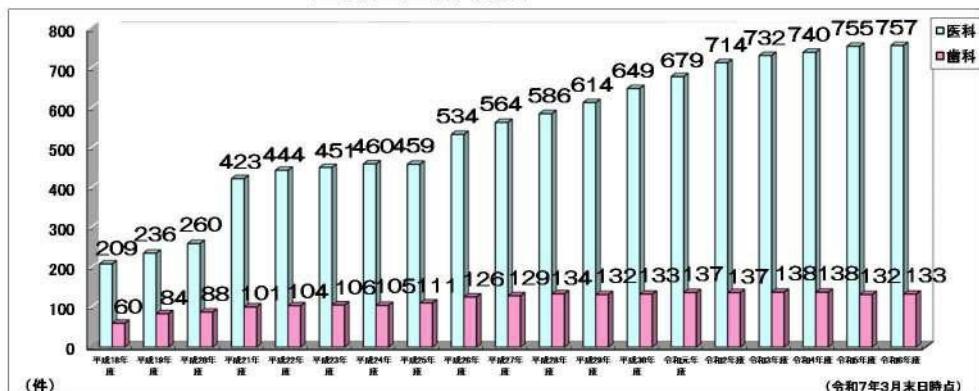
(令和6年度)

紹介率・逆紹介率年度推移

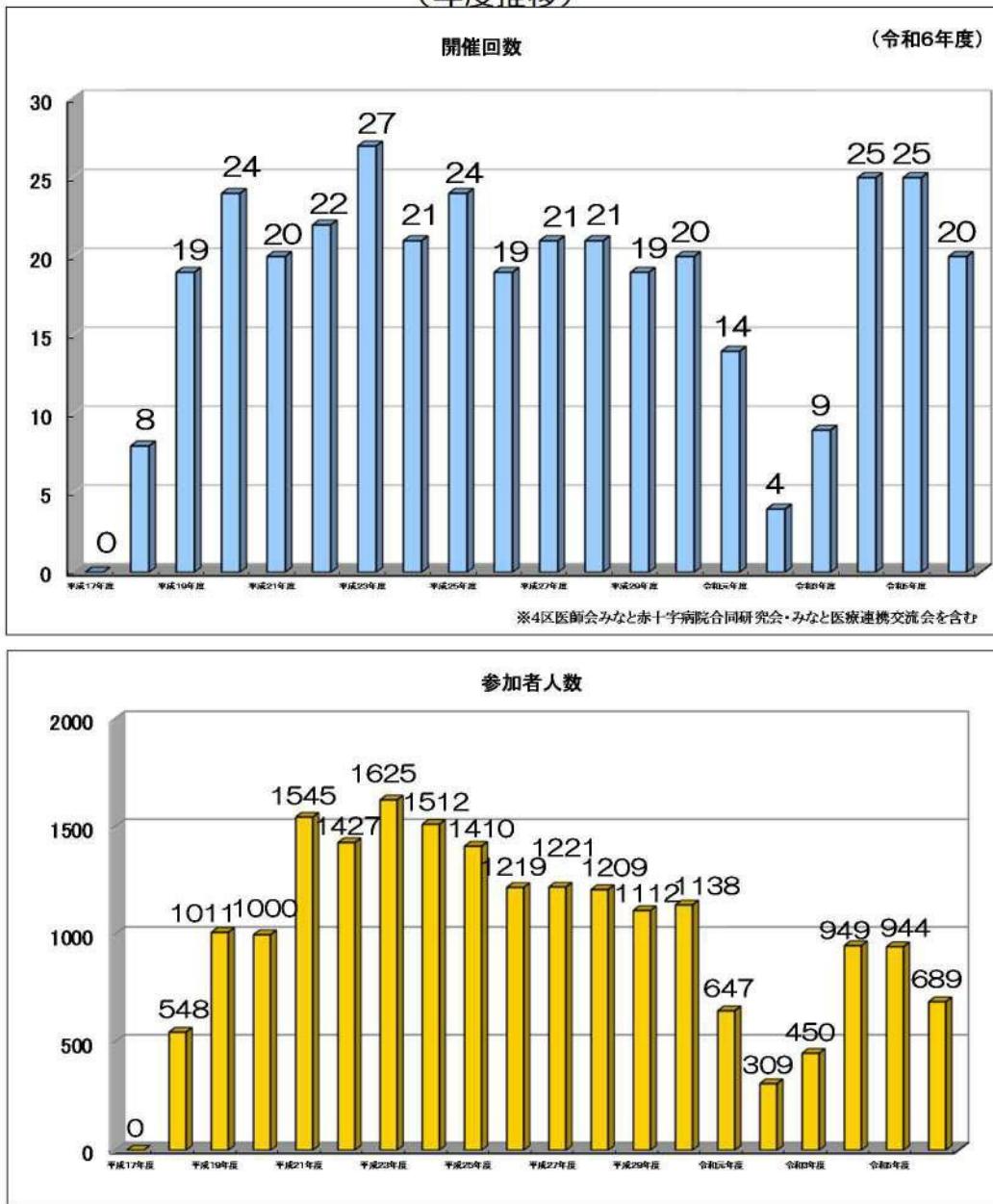


※医療法に基づく地域医療支援病院の紹介率及び逆紹介率計算方式
(令和6年度)

登録医登録状況



地域の医療従事者に対する研修実施状況 (年度推移)



2 成果

医療連携課では、地域医療機関の窓口として「顔の見える連携」を心がけ、地域医療機関との医療機能の分担と連携を推進し、紹介・逆紹介の向上に努めた。

紹介件数は 24,055 件で、前年度より 1,163 件増加し、逆紹介 27,243 件で前年度より 3,341 件と紹介・逆紹介件数ともに過去最高件数を達成した。

逆紹介率は前年を上回り、地域医療支援病院の指定要件を充たした。

また、地域医療従事者向け研修は、年間 20 回開催し、地域医療の質向上を図った。

これに加え、地域医療機関からのご要望を基に、放射線共同利用の WEB 予

約を令和6年11月から開始した。

3 課題

放射線共同利用の件数をコロナ前の件数に戻すと共に、今年度も地域医療支援病院として、地域医療機関との顔の見える連携を構築し、医療連携の質向上に努める。

4－5 地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）

1 データ

<相談室業務>

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
相談件数	5,729件	8,839件	11,578件
がん相談件数	2,080件	2,732件	2,732件

<算定件数>

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入退院支援加算	7,763件	11,237件	14,789件
入院時支援加算	1,485件	4,209件	7,247件
介護支援連携指導料	226件	629件	550件
退院時共同指導料2	122件	228件	247件
多機関共同指導加算	45件	57件	73件
大腿骨頸部骨折パス	27件	34件	19件
脳卒中パス	44件	60件	26件
誤嚥性肺炎パス	3件	7件	0件
歯科医療機関連携1	76件	112件	90件
歯科医療機関連携2	43件	23件	3件

<地域連携会議>

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
脳卒中地域連携パス 合同委員会		第1回10月2日 第2回12月20日 第3回3月27日	第1回6月12日 第2回11月13日 第3回2月12日
大腿骨頸部骨折地域 連携パス合同委員会	第1回10月20日 第2回1月19日 第3回3月16日	第1回5月25日 第2回10月26日 第3回2月22日	第1回6月27日 第2回10月24日 第3回2月27日
誤嚥性肺炎地域連携 パス合同委員会	第1回9月14日 第2回12月2日 第2回3月31日	第1回9月29日 第2回2月1日 第3回3月31日	第1回6月6日 第2回9月19日 第3回12月5日

※令和6年度で終了

<周術期歯科口腔ケア対象患者数>

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
院内歯科	345件	626件	1226件
院外歯科	76件	112件	90件

<療養・福祉相談室 主催/共催研修>

10月23日	急性期病院と地域のACPについてともに考える ～よりよい在宅療養支援をめざして part18～	主催
--------	--	----

2 成果

(1) 療養・福祉相談の実績報告（資料①）

入退院支援センターで入院前からの支援を強化し、入退院支援加算件数・入院時支援加算件数が大幅に増加した。支援を要する対象患者のほぼ全数に支援ができており、次年度も質を維持し支援を継続する。

(2) 地域関係機関との取組（資料②）

- ア 行政機関や在宅介護関係機関の会合、中区区レベル地域ケア会議、「かいごのWa！なか」の会合に参加し、在宅療養支援に関する情報交換及び情報の共有を図った。
- イ 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムでは行政を通して17件の相談があり、7件受入れを行った。
- ウ 全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会主催の総会や研修会にオンラインで参加した。
- エ 精神科医療に関する活動として、中区障がい者自立支援部議会や精神障害にも対応した地域包括ケアシステム検討会に参加し、地域との連携を図った。また、今後もさらに精神科救急医療/身体合併症システムの円滑な運用を継続したい。
- オ 退院時共同指導は増加したが、介護支援連携指導は1割強減少となつた。カンファレンスを通じ地域関係機関との連携を強化する（資料①）。
- カ 横浜市歯科医師会と連携し、入退院支援センターにおいて周術期口腔機能管理の取り組みを強化し、対象患者を大幅に拡大できた。次年度も継続する。
- キ みなとセミナー「介護と医療の連携を考える」を開催した。
- ク 横浜市児童虐待防止医療ネットワークに毎年3回参加し、市内小児救急病棟と児童虐待防止に向けた取り組みについて情報交換を行った。
- ケ 認定・専門看護師の地域に向けた活動について周知しておりさらに地域貢献に勤めたい。
- コ 病棟・行政と連携したハイリスク妊産婦連携指導料算定のシステムを構築しており、合同カンファレンスを6回25件開催し、算定取得につなげた。

(3) 専門職育成への取組

院外からは1名の社会福祉学生の実習、8名の看護学生の実習、16名の横浜市医師会ケアマネジャー医療研修、2名の国際医療福祉大学在宅看護

学生の実習、2名の神奈川県看護協会相互研修、院内看護部からクリニカルラダー「退院支援コース」研修者を22名受け入れた。

(4) 専門職としての研鑽

がん相談支援センター相談員研修の(3)を1名、受講をしている。また1名が認定がん専門相談員の資格を有し、継続学習をしている。

3 課題

- (1) 入退院支援マニュアルに沿った療養支援を病院全体で推進し、地域の関係者と共に、継続された支援を患者や家族に実施する。
- (2) がん拠点病院に必要とされるがん相談支援センターの育成を強化。
- (3) 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの院内外との連携推進。
- (4) 各区医師会 在宅医療連携室との連携を推進。
- (5) 中区地域包括ケア指針におけるアドバンスト・ケア・プランニングや緩和ケアの推進に向けた取組を医師会、歯科医師会、薬剤師会、行政、病院、地域の介護・医療関係者などと実施する。

資料①

(1)取扱人数

件数		実件数
年度実件数		11,578 件
継続実件数		484 件
新規実件数	入院	10,583 件
	外来、その他	995 件
年度延件数		38,307 件

精神科入院相談件数 247 件

がん相談	実件数	2,833 件
	延べ件数	4,070 件
	(対面)	2,700 件
	(電話)	1,370 件
	(その他)	0 件

*算定

入退院支援加算1 (700点)	14,789 件
入院時支援加算 (230点)	7,247 件
介護支援連携指導料 (400点)	550 件
退院時共同指導料2 (400点)	247 件
多機関共同指導加算 (2000点)	73 件
保険医共同指導加算 (300点)	8 件
小児加算(入院時支援加算) (800点)	1,263 件
精神科退院指導料(320点)	65 件

*地域連携バス実施状況

大腿骨頭部骨折バス	19 件
脳卒中バス	26 件
誤嚥性肺炎バス	0 件

(2)新規ケースの紹介経路

区分	実件数
医師	661 件
看護職	9,665 件
リハビリ職	0 件
その他院内職員	38 件
本人	111 件
家族・親戚縁者	137 件
院外関係機関	779 件
医療チーム	0 件
近隣者・知人	3 件
ソーシャルワーカー	184 件
合計	11,578 件

(3)新規ケース介入の時期

区分	実件数
受診前	339 件
外来	641 件
入院前	7,468 件
入院中	3,115 件
その他	15 件

(4)新規ケースの社会的背景

区分	実件数
独居	2,561 件
経済困窮	236 件
家族疎遠・身寄りなし	520 件
ハイリスク妊娠婦	33 件
精神疾患	925 件
認知症	717 件
家庭内暴力・虐待	51 件
自殺企図	73 件
無保険	25 件
身元不明	10 件
ホームレス	8 件
外国人	306 件
合計	5,465 件

(5)相談援助調整内容

内容	実件数	延件数
受診・受療	320 件	1,206 件
経済的問題	166 件	750 件
制度活用	213 件	820 件
入院療養生活	5,788 件	8,033 件
退院支援(在宅・転院・施設入所)	8,150 件	19,959 件
在宅療養・看護	5,951 件	15,418 件
医療者との関係	38 件	116 件
家族関係	25 件	96 件
日常生活	6 件	12 件
就労・就学	18 件	239 件
身元保証・権利擁護	149 件	576 件
死後対応	11 件	26 件
その他	28 件	64 件
合計	20,863 件	47,315 件

(6)援助方法

方法	延件数	
面接	本人	14,596 件
	家族	6,318 件
	友人・知人	154 件
電話	本人	214 件
	家族	5,872 件
	友人・知人	84 件
訪問	家庭	2 件
	その他	0 件
同行・同伴・代行	9 件	
連絡調整・院内	30,130 件	
連絡調整・院外・面会	471 件	
連絡調整・院外・電話	19,635 件	
連絡調整・院外・文書・FAX・mail	4,076 件	
カンファレンス(院内職種のみ)	3,147 件	
カンファレンス(院外職種含む)	557 件	
合同カンファレンス(院内職種のみ)	221 件	
合同カンファレンス(院外職種含む)	247 件	
合計	85,733 件	

(7)チーム医療

腎臓内科カンファレンス	0 件
乳腺チーム	508 件
児童虐待防止委員会	36 件
虐待防止対策委員会	28 件
ハイリスク妊娠産婦カンファレンス	42 件
緩和チーム	388 件
行動制限最小化委員会	183 件
外来ケモカンファレンス	72 件
認知症ケアチーム	0 件

(8)転帰先

区分	実件数
一般病院	401 件
回復期リハビリテーション病院	376 件
包括ケア	346 件
療養型病院	67 件
精神病院	182 件
介護老人保健施設	25 件
特別養護老人ホーム	103 件
有料老人ホーム	279 件
グループホーム	39 件
緩和	3 件
在宅	8,583 件
死亡	246 件

苦情	16 件
認知症疾患医療センター相談件数	156 件

資料②

令和6年更出張記録
①地域連携分野

内容	回数
かいごのWanなか かいごのWanなか 総会及び研修会	12
中区障害者自立支援協議会代表者会議	1
誤嚥性肺炎地域連携パッセ	1
脳卒中バス地域連携会議	3
大腿骨頸部バス会議	3
横浜中央病院地域医療交流会	3
中区医療・介護連携推進会議	3
聖隸横浜病院 地域連携のつどい	1
神奈川県難病医療連絡協議会	1
神奈川県がん診療連携協議会相談支援部会	4
磯子地域介護と看護の会	2
病院事務クロッシング	1
メディカルショートステイ調整委員・実務者委員合同会議	2
中区要保護児童対策連絡会	1
多職種間連携会議(西区)	1
神奈川県がん診療連携協議会相談支援部会広報WG	3
横浜市児童虐待防止医療ネットワーク(YMN)	4
磯子区の在宅医療を語る会	1
医療協ソーシャルワーカー会	1
医療とグリーフケア講演会	1
西区高齢者虐待防止事業連絡会	1
多職種事例検討会(中区)	1
中区生活支援センター運営連絡会	1
第5期中区地域福祉保健計画作成に関するグループインタビューについて	1
松島病院医療連携の会	1
精神科救急医療体制会議	1
中区在宅医療相談室研修会	1
慢性心不全患者へのサポート講演	1
みなど交流会	1
磯子区精神保健福祉関係機関連絡会	1
横浜保土ヶ谷中央病院ご挨拶	1
病院とケアマネージャーの連携について	1
神奈川長期療養者就職支援担当者連絡協議会	1
日赤東部brook医療連携実務者研究会	1
高齢者虐待防止法連絡会	1
南区在宅療養支援ネットワーク会総会	1

②研修・勉強会

内容	回数
入院時重症患者対応メディエーター養成講習会	1
赤十字救護班主事基礎研修会	3
実習指導者研修会	2
救急法	2
現任係長級職員研修会	1
ソーシャルワーク実習・実習指導者懇談会	1
高齢者虐待対応基礎知識	1
日赤医学学会総会	1
救護員としての赤十字看護師養成研修	1
第5回西立支援コ-デイネ-ター基礎研修	1
日本赤十字社臨床倫理と医療対話の研修会	1
看護管理者が知つておきたい「適時調査」傾向と対策	1
赤十字看護管理者研修Ⅲ期	1
医療安全管理看護管理者研修	1
入院時重症患者対応メディエーター実務者発表会	1
看護職員の働き方改革推進セミナー	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会係長会	1
研修型人材交流	1
笑顔が増えれば職場が変わる！～相手とわたしのためのアンガーマネジメント～	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会研修会	4
救急患者精神科継続支援料にかかる要件研修	1
③その他	1
内容	回数
横浜中央病院ご挨拶	1
馬車道本町クリニックごあいさつ	1
横浜鶴ヶ峰病院ごあいさつ	1
生麦病院へご挨拶	1
患者自宅訪問	1
県立保健福祉大学 就職説明会	1
大倉山記念病院ご挨拶	1
横浜保土ヶ谷中央病院ごあいさつ	1
横浜掖済会病院ご挨拶	1
本牧クリニックご挨拶	1
汐田総合病院ご挨拶	1
済生会神奈川県病院ご挨拶	1
新横浜クリニックご挨拶	1
横浜東邦病院ご挨拶	1
本牧病院ご挨拶	1
平和病院ご挨拶	1
ワシン坂病院ご挨拶	1
聖隸横浜病院ご挨拶	1

4－6 市民委員会

1 データ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
開催日 (出席人数)	令和5年2月10日 (7人)	令和6年2月6日 (8人)	令和7年2月25日 (8人)
	委員氏名	役 職	
1	河原 和夫	医療法人財団 利定会 大久野病院・介護医療院 理事・院長	
2	秋山 修一	横浜市中区医師会 会長	
3	三角 隆彦	社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市東部病院 院長	
4	荻野 安奈	作家 慶應義塾大学文学部名誉教授	
5	茅本 隆司	日本発条株式会社 代表取締役会長	
6	川本 守彦	川本工業株式会社 代表取締役社長	
7	河村 朋子	磯子区医師会在宅部門統括責任者	
8	松澤 秀夫	中区連合町内会長連絡協議会 会長	
9	田島 真也	横浜みなと赤十字病院奉仕団 団員	

2 成果

報告内容は以下のとおりである。

- ・横浜市立みなと赤十字病院の現況
- ・救急患者連携搬送
- ・みなと Reborn Project

当院の運営に対し有識者から意見をお聞きし、上記各報告についてだけではなく、その他当院の様々な問題点についてもご指摘をいただく場となっている。

3 課題

委員の方からご意見をいただいた場合に、担当部署が責任をもって改善に向けた行動に繋げることが必要である。

4－7 治験・受託研究

1 データ

(1) 治験および臨床研究等の実施件数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
治験実施件数	22 件	23 件	22 件
自主臨床試験件数	138 件	155 件	138 件
特定臨床研究	7 件	8 件	4 件
製造販売後調査件数	52 件	44 件	36 件

(2) 治験審査委員会開催状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
第1回	4月12日(火)	4月11日(火)	4月9日(火)
第2回	5月10日(火)	5月9日(火)	5月14日(火)
第3回	6月14日(火)	6月13日(火)	6月11日(火)
第4回	7月12日(火)	7月11日(火)	7月9日(火)
第5回	8月9日(火)	8月8日(火)	8月13日(火)
第6回	9月13日(火)	9月12日(火)	9月10日(火)
第7回	10月11日(火)	10月10日(火)	10月8日(火)
第8回	11月8日(火)	11月14日(火)	11月12日(火)
第9回	12月13日(火)	12月12日(火)	12月10日(火)
第10回	1月10日(火)	1月9日(火)	1月14日(火)
第11回	2月14日(火)	2月13日(火)	2月4日(火)
第12回	3月14日(火)	3月5日(火)	3月11日(火)
備考	全てWeb会議形式	R5年度より対面開催	

2 成果

(1) 治験

・令和6年度新規治験受託件数は5試験（医薬品5試験）であった。内訳は下記のとおりである。

- ① 難治性慢性咳嗽患者を対象としたBLU-5937の第3相試験
- ② 協和キリン株式会社（治験国内管理人）の依頼による成人及び青少年アトピー性皮膚炎患者を対象としたAMG451の第III相試験
- ③ 協和キリン株式会社（治験国内管理人）の依頼によるAMG451の第II相試験（第II相試験）
- ④ 鼻腔内ステロイド治療を受けている鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎成人患者を対象としてLY3650150の有効性及び安全性を評価する第III相試験
- ⑤ アルツハイマー病に伴う精神病の治療薬としてのKarXTを評価する第3相並

行群間比較試験

- ・治験審査委員会の審査において、文書閲覧システムを導入した。これにより紙の資料の大幅な削減となり、資料の発送および廃棄に係る時間と人件費の削減につながった。

(2) 自主臨床研究

- ・事務局業務支援の試みとして、外部からの派遣による支援体制を構築した。特に当院のみで実施する臨床研究の実施計画書確認業務においては、これまでよりも短期間で確認が完了し、審査までの期間を短縮できるようになった。研究の実施支援においては、治験コーディネーター（C R C）の支援をいくつかの多機関共同研究において実施した。支援業務としては同意説明補助、被験者の来院管理、試験窓口、データ入力、データ抽出、検体回収等であり、研究者の負担軽減につながった。

- ・倫理審査システムの導入が決定し、複数回の打ち合わせを経てテストサーバーでの手順確認を開始し、本格運用に向けた準備を実施した。

(3) 特定臨床研究

研究分担施設として実施した研究は4試験であった。施設としての対応は、主に施設管理者への報告および承認取得の実施、書類の管理を実施した。今年度に契約した試験の1つでは、研究薬を薬剤部にて保管管理する研究が1試験加わった。

(4) 教育・研修

初回研修セミナーとして指定した2つのe-learningの新規受講者は計46名であった。継続研修セミナーとしては、下記の通り2回実施した。

	1回目	2回目
実施時期	令和6年10月3日（木） 18：00～19：00	令和7年1月30日（木）
テーマ	医学研究・医療とELSI：インフォームド・コンセントの要件	今さら聞きにくい臨床研究のルールについて：臨床研究法と倫理指針
講師	慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 医学部 医療政策・管理学教室 教授 前田 正一 先生	東京科学大学 生命倫理・臨床研究戦略推進室 室長 厚生労働省医政局研究開発政策課 臨床研究等技術参与 八百野 恭子 先生
開催方法	会場とWeb併用のハイブリッド	会場とWeb併用のハイブリッド
単位認定	日本専門医機構の認定講習	日本専門医機構の認定講習
参加者	55名（院内49名、院外6名）	76名（院内63名、院外13名）

3 課題

(1) 治験

- ・令和6年4月より新たな治験管理システムを導入したため、今後は治験の必須文書保管の電磁化に向けて手順書及び環境等の整備および見直しを進める。
- ・GCPの改訂に合わせて治験の標準業務手順書等の改訂を行う。

(2) 自主臨床研究

- ・「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の改正に伴い、手順書の見直しを図り、個人情報保護法に則った研究実施体制および審査体制の整備を行う。
- ・倫理審査システムが円滑に運用できるよう院内への周知および研究者への対応（簡易マニュアル等の作成等）の検討を行い、実践していく。

(3) 特定臨床研究

- ・整備途中である手順書及び様式を整え、体制を構築し院内で周知を行う。

4-8 患者・市民に対する相談・啓発活動

1 データ

<赤十字救急法等講習会開催実績>

(1) 赤十字救急法短期講習

令和4年度		令和5年度		令和6年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
8回	52人	4回	46人	5回	31人

(2) 赤十字救急法救急員養成講習

令和4年度		令和5年度		令和6年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
0回	0人	2回	67人	2回	42人

(3) 赤十字健康生活支援講習短期講習

令和4年度		令和5年度		令和6年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
2回	32人	3回	27人	1回	19人

(4) 赤十字健康生活支援員養成講習

令和4年度		令和5年度		令和6年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
0回	0人	1回	12人	1回	4人

(5) 水上安全法短期講習（市内小学校の着衣泳講習へ指導員職員を派遣）

令和4年度		令和5年度		令和6年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
0回	0人	1回	2人	3回	3人

2 成果

市民サービスの一環として、市民の受講を受け入れる講習会を開催することができたほか、地域施設への安全思想の普及（水上安全法）を実施することができた。

3 課題

救急法短期講習会（BLS 講習）や健康生活支援講習会は、当院を訪れた患者や来訪者の急変時の対応も含まれており、来訪された方々の健康や安全の確保、サービスの向上のために、引き続き講習会を開催し、より多くの職員の習得を目指す。また、横浜市立病院であり赤十字病院でもあるため講習会を通じて市民への健康・安全への意識向上をさらに取り組む。

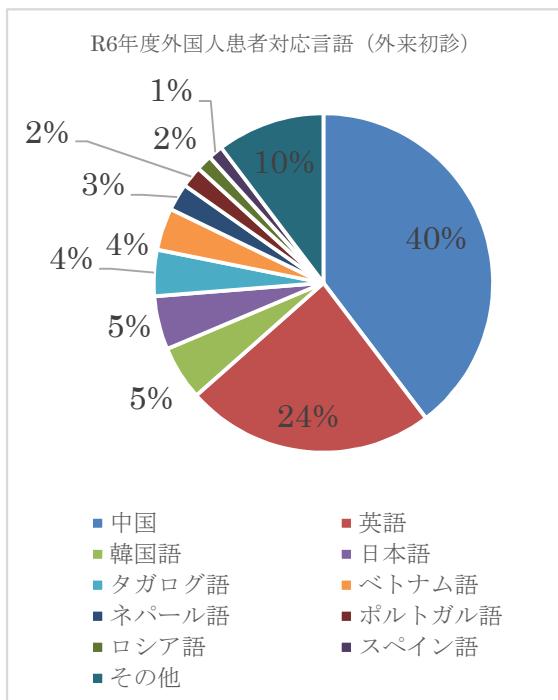
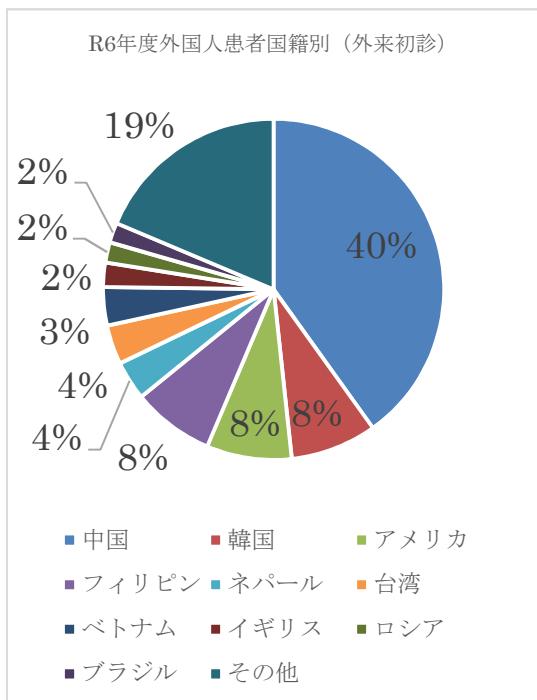
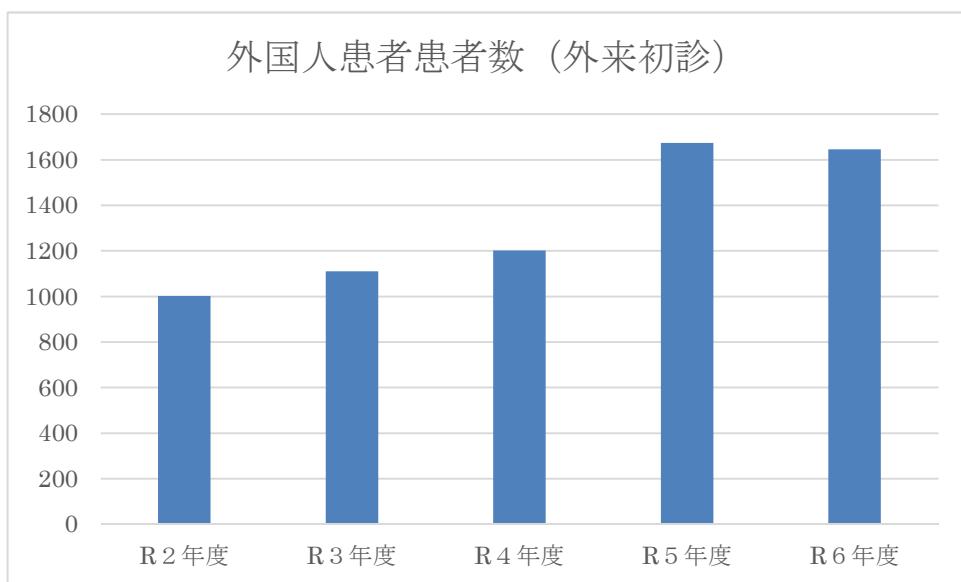
4-9 患者サービス

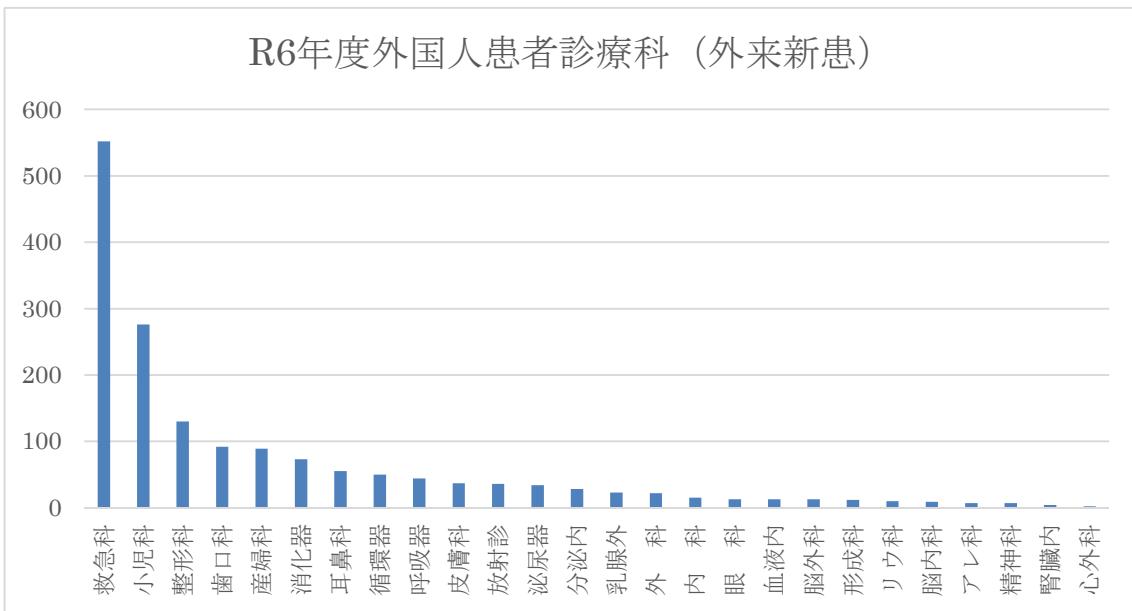
1 データ

(1) 患者満足度調査結果（令和6年度）

患者満足度調査を令和6年10月に実施した。結果については、令和6年度第3回のCS委員会にて報告した。

(2) 外国人患者統計（令和6年度）





(3) 外国人患者受入れ体制の整備活動

- ・外国人患者受入れ体制整備
- ・通訳ツール活用促進、通訳会話の文字お越し機能の検討
- ・JMIP 統計情報の収集
- ・国際医療部運営委員会を年4回開催
- ・外国人患者対応マニュアル、通訳マニュアル、業務手順の見直し
- ・院内サイン、各種文書の多言語化対応（英語、中国語）
- ・デジタルサイネージのコンテンツの見直し
- ・医療通訳者の育成支援
- ・異文化理解のための講演会の開催（中国の文化と中国語）
- ・未収金対策検討、ポータブル決裁端末の導入と活用、訪日外国人受診者医療費未払情報報告システムへの参加

(4) 病院ボランティア活動

ア 総合案内

新型コロナウイルス感染拡大期であっても、病院内入口付近で患者目線での外来患者の案内や誘導を実施した。

また、災害時にも対応できるよう病院総合防災訓練へ参加した。

イ 作業部会

- ・ガーデニング：第2・4水曜日
 - ・パッチワーク：第1・3金曜日
- ※コロナ感染症対策により一時休止中
- ・車いす清掃：第1・3金曜日
 - ・コンサートイベントなどの企画、運営など

2 成果

(1) CS 委員会

CS 委員会では、「療養環境チーム」「調査改善チーム」「啓発教育チーム」の3チームを設置し、活動を行った結果、以下の成果を得た。

療養環境チームでは、院内ラウンドにより浴室および照明の環境改善を実施、また、特別室専用ラウンジのリニューアルを行い、HP・パンフレット・病室での案内を配置した。他にも、病院 HP のリニューアルに伴い、特別室の説明文も見直す等の改善を図った。

調査改善チームでは、「患者満足度調査」、「みなさまの声・ご提案」によって集積される患者のご意見を分析し、患者サービス向上への取組を実施した。コロナ禍に導入したペーパータオルをエアータオルに変更することにより、紙ごみが減少し、皆様の声、満足度調査からトイレに関する不満は減少した。

啓発教育チームでは、ナーシングスキルを活用した接遇研修会を実施することで、多くの受講者数の参加に繋げた。

(2) 外国人患者対応

外国人患者対応については、患者アンケート、職員からの意見、対応困難事例などを参考に、国際医療部運営委員会にて常時改善活動を行っている。増加傾向にある訪日外国人患者対応として、誤訳によるリスクを回避するために医療通訳ツールの活用を促進、初診時以外の初回コンサルテーション時にも対応言語がすぐにわかるよう「対応言語板」の運用の見直しを行った。また、未収金対策として、入院患者の請求タイミングを変更、ポータブル決裁端末を導入することで、スムーズな会計処理ができるよう改善した。

(3) 病院ボランティア活動

ボランティア活動では、横浜みなと赤十字病院奉仕団に所属する病院ボランティアが、訪れた患者がスムーズで安心して受診できるように、院内の案内や、敷地内のガーデニング、患者用パッチワークキルトひざ掛けの製作などの活動や提供を行った。

3 課題

開院後 20 年が経過し、様々な施設の老朽化が進んでいる。引き続き満足度調査、みなさまの声、ラウンドを通して、快適な環境づくりに取り組んでいく。

患者満足度調査やみなさまの声で本年多く上がった、電話のつながりにくさについて、担当部署と連携して改善を行っていく。啓発教育チームは、平成 7 年度に立ち上がったキャリア開発支援部と満足度調査結果を共有しつつ、教育機能は移管する。

外国人患者対応としては、令和 8 年度の JMIP 更新受審準備をすすめ、増加する外国人患者への対応の強化（救急外来での対応強化、未収金対策、現場で必要な書類の多言語化など）を更に推し進める。

外来患者満足度調査 結果報告

調査期間 令和6年10月21日(月)～令和6年10月25日(金) 有効回収枚数 688枚

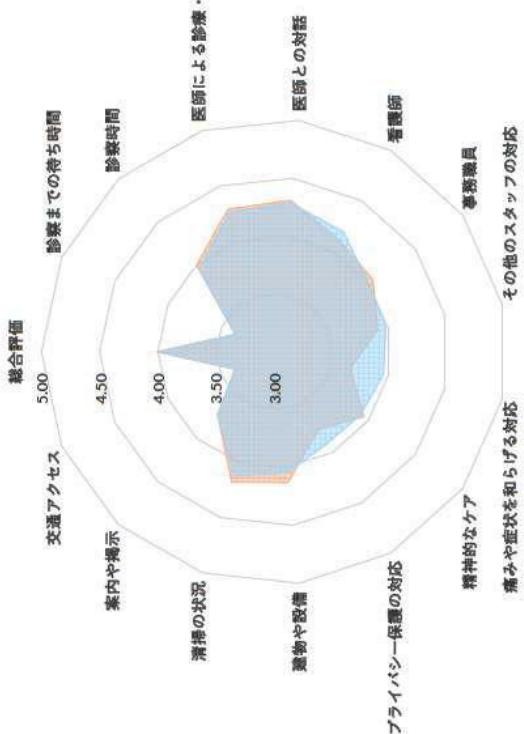
① 回答者 内訳

項目	人数
0～9歳	12
10代	8
20代	20
30代	41
40代	48
50代	90
60代	115
70代	121
80代	74
90代以上	7
無回答	152

項目	人数
男性	225
女性	311
無回答	152

項目	人数
患者や利用者本人	636
患者や利用者の家族	51
患者や利用者の知人	0
その他の關係者	1
無回答	0

② 回答内容



入院患者満足度調査 結果報告

調査期間 令和6年10月15日(火)～令和6年12月9日(月) 有効回収枚数 568枚

① 回答者 内訳

項目	人数
患者や利用者本人	488
患者や利用者の家族	30
患者や利用者の知人	0
その他の関係者	0
無回答	50

項目	人数
0～9歳	10
10代	12
20代	20
30代	31
40代	38
50代	72
60代	111
70代	158
80代	70
90代以上	6
無回答	40



② 回答内容

4-10 医療データベースの構築と情報提供

1 成果

(1) インターネット環境の整備

ポストコロナを見据えた受け入れ環境整備促進事業（災害・急病等危機管理対応事業）について

- (1) 観光施設等における衛生環境の強化
- (2) 災害時の観光施設等における避難所機能の強化
- (3) 災害時の観光施設等における多言語対応機能の強化
- (4) 訪日外国人患者受入機能強化
- (5) 災害時等における観光危機管理の強化

の事業に参画し院内のインターネット Wi-Fi 環境の整備を行った。

(2) PHR 構築のデータベース開発

アレルギー疾患患者へのデータベース構築として一部のアレルギーからデバイス管理できるように整備、開発を進めている。

2 課題

(1) 電子カルテシステムのリプレイス準備

AI を使用した問診票や職員の働き方改革への寄与、新機能に対応する WG の立ち上げなど電子カルテシステムのリプレイス計画を進める。

(2) 情報セキュリティ体制の強化

B C P（事業継続計画）や情報セキュリティ対策の強化の推進、医療情報の安全管理に関するガイドラインの準拠、職員対象の訓練や研修を計画する。

5 職員研修

5－1 職員研修（医師）

1 データ

(1) 事業実績

研修会等名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
モーニングセミナー	年間43回	年間43回	年間43回
医学生向けプログラム 説明会	年間3回オンライン (148名参加)	年間3回 うち1回はオンライン (119名参加)	年間3回 うち1回はオンライン (72名参加)
Morbidity and Mortality Conference	年間2回	年間3回	年間3回
講演会	年間2回	年間3回	年間3回
新規採用者 オリエンテーション	4月1日	4月3日	4月1日
新規採用医師 オリエンテーション	4月4日	4月3日	4月1日
新規採用研修医 オリエンテーション	4月5～8日 (4日間)	4月4～10日 (5日間)	4月1～7日 (5日間)
チーム医療 ワークショップ	4月28日	4月28日	4月26日
院内CVCライセンス 制度	認定試験3回 指導者試験1回	認定試験3回 指導者試験0回	認定試験2回 指導者試験1回
指導医養成講習会	-	7月16・17日 (2日間)	-
JMECC	2月12日	2月4日	2月16日

(2) 採用人数

【初期研修】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
研修医	8(8)	8(8)	8(8)	8(8)
研修歯科医	1(1)	2(2)	2(2)	2(2)

※()は定員数

【専門研修】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
整形外科専攻医	1(2)	2(2)	2(2)	2(2)
内科専攻医	5(6)	1(6)	3(6)	4(4)
外科専攻医	1(2)	2(2)	2(2)	1(2)
救急科専攻医	6(6)	5(6)	3(6)	6(6)
麻酔科専攻医	3(3)	0(4)	0(4)	1(4)
精神科専攻医	0(3)	2(2)	1(2)	0(0)

総合診療科専攻医	-	-	-	2 (3)
----------	---	---	---	-------

※ () は定員数

(3) 診療科見学者数（延べ人数）

【医科】

(医学生) 見学者年間延べ人数

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
169	216	241	201

(研修医) 見学者年間延べ人数

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
17	27	35	30

【歯科】

(歯学生) 見学者年間延べ人数の推移

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
5	17	5	19

2 成果

医師及び歯科医師臨床研修では、医師8名、歯科医師2名が研修を修了した。

令和2年度より新制度に移行した医師臨床研修制度では、PG-EPOCなどを使用して到達目標の達成状況の確認を行った。また、PG-EPOCや当院規定の書式により指導医および他職種が研修医に対する評価を実施し、その結果を研修医にフィードバックした。さらに、研修医による指導医評価を行いその結果を指導医にフィードバックした。

令和4年度研修開始研修医のうち2名が当院の専門研修プログラムで研修を開始した（救急科1名、外科1名）。

専門研修では、内科2名、整形外科2名、救急科6名が研修を修了した。

初期臨床研修及び専門研修に関して令和6年度の採用活動は引き続きホームページを基本とし、医学生向けに当院独自にプログラム説明会を開催した。

3 課題

臨床研修では、卒後臨床研修評価機構による書面調査を踏まえ必要な取り組みを行う。臨床研修について地域からの声の受け入れなどを検討している。

専門研修では、管理委員会など年間計画立案、プログラム改訂、連携病院への連絡など定時作業の集約が望まれる。

5－2 職員研修（看護部）

1 データ

(1) ラダー認定者数・院外研修受講者数等

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
実践者ラダーレベルⅠ認定	70人	5人	71人
レベルⅡ認定	39人	44人	51人
レベルⅢ認定	3人	6人	13人
レベルⅣ認定	0人	0人	4人
管理者ラダーレベルⅠ認定	0人	5人	0人
レベルⅡ認定	0人	0人	1人
レベルⅢ認定	0人	0人	0人
レベルⅣ認定	0人	1人	0人
ラダー研修	59回	65回	61回
役割研修	33回	31回	35回
新人技術研修	11日	11日	9日
院外研修(看護協会)	69人	97人	141人
看護管理者ファースト研修	5人	3人	4人
看護管理者セカンド研修	0人	2人	3人
看護管理者サード研修	0人	2人	0人
臨床指導者研修	5人	6人	7人
認定看護師研修	1人	1人	2人
学会発表・参加	66人	72人	62人
特定行為研修	2人	5人	2人

(2) 院内・院外特定行為研修実績

区別別科目名	令和3年度	令和5年度	令和6年度
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	2人	5人	3人
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	2人	1人	0人
循環動態に係る薬剤投与関連	0人	1人	0人
創部ドレーン管理関連	0人	0人	0人
精神および神経症状に係る薬剤投与関連	0人	1人	0人
呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	—	2人	1人
動脈血液ガス分析関連	—	2人	0人
創傷管理関連	—	—	1人
術中麻酔管理領域	—	—	1人

(3) 院内ラダー・役割研修実績

研修名	研修名	回数	受講者数	研修名	研修名	回数	受講者数
実践者 レベルⅠ	フォローアップ	1	76	実践者 レベルⅢ	認知症ケア	4	11
	多重課題	1			口腔ケア	4	9

	フィジカルアセスメント	2			がん看護	4	14
	グローバルヘルス	1					
	看護倫理 I	1		実践者 レベルIV	ストレスマネジメント	2	5
	防災訓練	1			組織論とアサーティブネス	1	4
					家族看護	1	17
実践者 レベル II	フィジカルアセスメント II	5	72	管理者 ラダー	新任係長研修	6	2
	看護と診療報酬	1	73		新任師長研修	5	2
	看護コミュニケーション	1	73	役割研修	救護員のための赤十字看護師研修	4	57
	リーダーシップと メンバーシップ	3	49		フォローアップ研修	1	7
実践者 レベル III	リーダーシップと メンバーシップ	3	49		静脈注射基礎 I	3	77
	看護倫理III	3	49		静脈注射基礎 II	1	70
	マネジメント入門	3	11		2023年教育担当者	1	19
	フィジカルアセスメント III	4	12		実地指導者研修	5	17
	後輩育成	1	30		褥瘡専任看護師研修	4	24
	看護研究	2	8		暴力対応研修	1	22
	入退院支援	5	21		こころのケア要員	2	18
					看護補助者研修	8	62
					認知症スキルアップ	1	14
					静脈注射実践 I	4	15

2 成果・課題

(1) 看護職員のキャリア開発

院内研修はe-ラーニングと対面での講義、体験、発表等の形態で実施した。講義だけでなく体験を通して、またその学びを発表することで得られるものが多くあり、各研修目標の達成度は高い。新人看護師のラダー評価会の負担感を軽減するために、評価会時期を変更し、計画的に実施することが出来た。また、実践者ラダーレベルIIIやIVを目指す看護職員が増えており、キャリアアップが図られている。各自がキャリアを考える環境が整ってきたため、より質の高い教育の機会が提供できるよう企画していきたい。

(2) 特定行為看護師の育成

今年度の研修修了者は、4名となり新たに術中麻酔管理領域の特定行為を拡大した。特定行為看護師は、講義・演習によって習得した実践力と高度かつ専門的な知識および技能を向上する能力を統合することで、医師の指示の下、手順書を用いて実践している。医師のタスクシフトにも繋がる分野であり、活躍を期待している。今後は、栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注

射用カテーテル管理) 関連の領域を拡大していく予定であり、特定行為看護師が高度な臨床実践を発揮できるよう体制の整備を図っていく。

(3) 看護管理者のキャリア開発

今年度は各看護管理者研修(ファースト・セカンド)には、7名受講することができた。また、看護管理研修後に管理者ラダーのレベルⅡに挑戦し、1名取得した。看護管理者が管理者ラダー取得に向けて現在の状況を明確にするために、目標面接で支援を行う体制の整備を行った。当院の看護管理者がより質の高い看護管理実践能力を発揮できるよう、引き続き、課題に向けて成果を出せるように支援していく。

(4) 役割研修による看護師育成

静脈注射研修は対象者が全員受講することができた。他のスキルアップとして褥瘡ケア、暴力対応、認知症スキルアップ研修等には、各部署1~2名受講することができた。また、救護関連の研修では、赤十字救急法、赤十字健康生活支援講習会を開催することができた。労働力人口の減少を背景に、看護補助者の確保は困難になっており、看護師が質の高い看護を提供するためには、看護補助者との協働が課題となっている。看護師と看護補助者が働きやすい環境を協働できるよう研修の充実を図っていく。

(5) 看護補助者のキャリア開発

看護補助者のラダーを取得する看護補助者が増加している。ラダーレベルⅠ、Ⅱから今年度は、ラダーレベルⅢ・Ⅳを作成し、3月に2名がラダーレベルⅢを取得した。看護協会の「看護補助者の業務に必要な能力の指標」を参考に、当院の指標の見直しを行い、看護補助者が自身のキャリアを考える教育を推進していきたい。

令和7年度 実践者・看護助手・管理者ラダー レベル別研修計画

		R7年4月1日												
レベル分類	研修会名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
入職時	新卒看護師・既卒看護師 新規採用者研修													
レベルI	[集合研修] ・新卒看護師 集合研修 ・チームワークシヨップ ・フォローアップ研修 ・多重課題 ・赤十字活動	チームワークシヨップ 5/9 集合研修	フォローアップ研修 ① 6/27 (16:00~17:00)	多重課題 (各部署) 8/1~10/31 赤十字活動 訓練 (各部署) 9/1~11/28 既卒入職者は入職初日に研修実施										
レベルII	[ラダー研修] ・グローバルヘルスⅠ ・看護倫理Ⅰ ・フィジカルアセスメントⅠ①② 4/12 (13:25~16:55)	グローバルヘルスⅠ 4/12 (8:35~10:05) フィジカルアセスメン トⅠ① (急変時の看 護) 4/12 (13:25~16:55)	看護倫理Ⅰ 7/3 (16:00~17:00) フィジカルアセスメントⅠ ② 8/7 (9:00~12:00) or (13:30~16:30)	④消化器 6/26 or 7/18 or 6/16 (16:00~17:00)	③脳神経 8/1 or 9/4 or 9/25 (16:00~17:00)	④運動器 10/2 or 10/23 or 11/1/27 (16:00~17:00)	⑤運動器 12/5 or 12/25 or 1/22 (16:00~17:00)							
レベルIII	フィジカルアセスメントⅡ (全5回)	5/19 or 5/22 or 6/16 (16:00~17:00)	①呼吸器 6/6 or 6/17 (16:00~17:00)	②循環器 6/26 or 7/18 or 7/24 (16:00~17:00)	③脳神経 8/1 or 9/4 or 9/25 (16:00~17:00)	④消化器 10/2 or 10/23 or 11/1/27 (16:00~17:00)	⑤運動器 12/5 or 12/25 or 1/22 (16:00~17:00)							
レベルIV	看護と診療報酬 看護コミュニケーションⅡ 専門領域研修	看護倫理Ⅱ (全3回)	リードシップヒメンノバーシップ (全4回)	後輩育成	看護倫理Ⅲ (全3回)	部署間研修又は看護協会等の院外研修 (出張として認められたもの)	③部署内活動と部署内発表 (7/28~1/24)	②各部署事例検討(30分) 7/1~11/17	③管理体験(3時間) 8/25~11/28	④11/21 (17:00~18:30)	④1/28 (16:00~17:00)	15:30~17:00	3/9	
レベルV	看護研究(入門) (全2回)	マネジメント入門 (全4回)	フィジカルアセスメントⅢ (全4回)	看護ケア (全4回)	がん看護 (全4回)	看護研究(入門) (17:00~18:00)	②7/1 (17:00~18:00) ●7/2~12/7 受講者は毎月1回30分程度、アドバイザーの支援を受ける	②各部署事例検討(30分) 7/1~11/17	③管理体験(3時間) 8/25~11/28	④11/21 (17:00~18:30)	④1/28 (17:00~18:30)	15:30~17:00	3/9	
レベルVI	入退院支援 (全5回)	実習指導	看護ケア (全4回)	看護ケア (全4回)	看護ケア (全4回)	①5/16 (17:00~18:00)	②7/1 (17:00~18:00) ●7/2~12/7 受講者は毎月1回30分程度、アドバイザーの支援を受ける	②8/21 (17:00~18:00)	③管理体験(3時間) 8/25~11/28	④12/4 (17:00~18:00)	④12/4 (17:00~18:00)	15:30~17:00	3/9	
レベルVII	看護知識論 キャリアカウンセリング ストレスマネジメント (全3回)	家族看護 組織論ヒアサーティフネス	看護知識論 キャリアカウンセリング ストレスマネジメント (全3回)	看護知識論 キャリアカウンセリング ストレスマネジメント (全3回)	看護知識論 キャリアカウンセリング ストレスマネジメント (全3回)	①5/26 (17:00~18:00)	②6/23 (17:00~18:00)	③3時間) 6/24~9/28 院外研修で読み替え(企画書参照)	③(3時間) 6/24~9/28 院外研修で読み替え(企画書参照)	④9/29 (17:00~18:00)	⑤12/11 (17:00~18:00)	15:30~17:00	3/9	
レベルVIII	看護助手ラダー レベル I	看護助手ラダー レベル II ①赤十字7原則 ②コミュニケーション ①目標管理 ②目標支援	看護助手ラダー レベル III ①看護助手ラダー レベル III ②目標支援	看護助手ラダー レベル IV ①看護助手ラダー レベル IV	6か月通して、①入職時オリエンテーション ②補助者必須研修AB ③安全・感染に関する講義 ④ナーシングスキル動画講義視聴 ※ナーシングスキルの自己IDのログイン及びみなとスクショーラーでも申請	①7/30 (15:00~16:00)	①7/30 (15:00~16:00)	②10/9 (15:00~16:00)	②10/9 (15:00~16:00)	②1/20 (15:00~16:00)	②1/20 (15:00~16:00)	15:30~17:00	3/9	
レベルIX	管理者ラダー レベルI 新任係長研修 (全4回)	管理者ラダー レベルII 新任部長研修 (10月中 16:00~17:00)	管理者ラダー レベルIII 新任部長研修 (10月中 16:00~17:00)	管理者ラダー レベルIV 新任部長研修 (10月中 16:00~17:00)	6か月通して、①入職時オリエンテーション ②補助者必須研修AB ③安全・感染に関する講義 ④ナーシングスキル動画講義視聴 ※ナーシングスキルの自己IDのログイン及びみなとスクショーラーでも申請	③10/8 (15:00~16:00)	③10/8 (15:00~16:00)	④12/10 (15:00~16:00)	④12/10 (15:00~16:00)	④2/18 (16:00~17:00)	④2/18 (16:00~17:00)	15:30~17:00	3/9	

5－3 職員研修（薬剤部）

1 データ

（1）部内研修実績

- ・薬剤に関する説明会 9回
- ・がんに関する勉強 5回
- ・栄養に関する勉強会 2回
- ・感染に関する勉強会 5回
- ・糖尿病関連勉強会 1回
- ・腎臓病関連勉強会 1回
- ・医薬品情報室（DI室）からの情報共有 11回
- ・病棟関連業務に関するオーディット及び勉強会 8回
- ・副作用報告に関する勉強会 4回
- ・手術業務に関する勉強会 1回
- ・緩和医療に関する勉強会 5回
- ・TDMに関する勉強会 2回
- ・医療安全に関する勉強会 1回
- ・調剤に関する勉強会 3回
- ・学会発表予演会 3回
- ・その他チーム医療に関する勉強会 7回
- ・文献抄読会 1回
- ・災害救護に関する勉強会 2回
- ・診療報酬の関する勉強会 1回
- ・地域連携に関する勉強会（薬葉連携座談会） 3回
- ・臨床推論に関する勉強会 1回
- ・実務実習報告会 3回

（2）部外との勉強会

- ・地域連携に関する勉強会（薬葉連携座談会） 3回
- ・他病院との勉強会（みなと赤十字、けいゆう、市民病院） 2回
- ・保険薬局との勉強会（みなとかんわ薬葉勉強会） 1回

（3）学会発表

- | | |
|--------------------------|-----|
| ・第34回日本医療薬学会年会 | 2演題 |
| ・第27回 日本臨床救急医学会総会・学術集会 | 3演題 |
| ・第10回神奈川県急性期薬物療法研究会 | 1演題 |
| ・第14回 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2025 | 1演題 |
| ・日本病院薬剤師会関東ブロック第54回学術大会 | 2演題 |

- ・第62回日本癌治療学会学術集会

1 演題

(3) 論文投稿

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| ・Cureus | 1 報 |
| ・American Journal of Case Reports | 1 報 |
| ・日本病院薬剤師会雑誌 | 1 報 |

2 成果

- ・薬剤部内において部員会での研修プログラムを作成し、薬剤師研修委員会を中心部員会をはじめとした研修の質の向上に努めている。
- ・日赤の新たな取り組みである勤務評定システムを活用し、目標達成の進捗を確認し目標の調整を行いながら進めてきた。
- ・勉強会・研修会の内容は部員の意見を聴取し、プログラムに反映して実施した。
- ・保険薬局だけでなく、地域の病院とも共催の勉強会を開催して、地域全体の薬物治療の向上を考慮して実施している。

3 課題

- ・薬剤師教育ラダーを活用しているが、日赤本部の教育ラダーや勤務評定についてもバランスよく活用しながら、引き続き検討していく必要がある。
- ・薬物療法の質向上につなげるため、専門、認定薬剤師取得者を増やしていく。また外部の研修、学会への参加を引き続き積極的に進める。今後も他施設との情報交換も積極的に進め、専門、認定の必要性についてもさらに理解を深める必要がある。
- ・設定した個人目標を達成できるようにサポート体制についても充実させていく必要がある。

5－4 職員研修（医療技術部門）

1 データ

研修会名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新規採用者オリエンテーション	4月開催	4月開催	4月開催
チーム医療ワークショップ	年間2回開催	年間2回開催	年間2回開催
研修会参加数（5部門）	年間170回	年間150回	年間149回

2 成果

医療技術部門は放射線科部、検査部、栄養課、リハビリテーション科部、臨床工学課の5部門で構成されている。本年度の医療技術部門の研修会参加数は149回であった。それぞれの部門において、医療ニーズにあった専門資格の取得を促し、学会発表や論文投稿などを行うことができ専門性や技術の向上に繋げることができた。

5部門で学会発表10演題、論文投稿2題を行うことができた。

5－5 職員研修（事務部）

1 データ

	令和5年度	令和6年度
レベル1 (入社1年目)	対象者：4人 事務系部門理解、メンタルヘルス、文書、コミュニケーションスキル、当直研修など12回	対象者：4人 事務系部門理解、メンタルヘルス、文書、コミュニケーションスキル、当直研修、看護体験等14回
レベル2 (入社2年目)	対象者：5人 メンタルヘルス、診療報酬、災害救護、会計の基礎、物流管理、目標管理など7回	対象者：4人 メンタルヘルス、診療報酬、災害救護、会計の基礎、物流管理、病院機能等9回
レベル3 (入社3年目以降の主事)	対象者：48人 コミュニケーションスキル、データ分析、PDCAサイクルの3グループに分かれて研修、発表	対象者：42人 1G：コミュニケーション 2G：データ分析 3G:PDCAサイクル 上記3グループ、各2回講義と発表
レベル4 (係長クラス)	対象者：17人 課題解決型チーム研修1回、発表1回	対象者：17人 課題解決型チーム研修1回、発表1回
レベル5 (課長クラス)	対象者：16人 組織横断的な課題解決研修、事務部目標に対する取り組み発表など3回	対象者：13人 組織横断的な課題解決研修、事務部目標に対する取り組み発表など3回

2 成果

各レベル（経験年数と職位）に合わせた研修内容を実施した。レベル1・2では、事務職員として身に着ける必要となる知識の習得により、院内全体を把握し、病院経営を考えることができるようになってきた。レベル3は3コースを3年間にわたり該当職員が受講できる仕組みとした。事務職員として課題解決できる力の基盤が構築できたと思われる。レベル4と5は各職位として高めていく内容であり、それぞれが取り組み発表することで能力向上につながることになった。

3 課題

レベル1～3が経験年数で実施しており、レベル3の対象者が多く、今後の研修のあり方を考える時期になってきている。研修内容もしくは研修全体構築を見直しを検討する必要がある。

6 院外からの研修受入れ

6－1 院外からの研修受入れ（医師）

1 データ

クリニカルクラークシップ受入れ数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受入れ総数	7名	13名	9名

2 成果

近年、医学教育の国際基準に適合するため大学の臨床実習期間が延長され、大学病院以外の病院でもクリニカルクラークシップが行われるようになっている。各大学より要請のあった診療科では積極的に教育活動に参加いただいた。

令和6年度は7大学（兵庫医科大学1名、滋賀医科大学1名、横浜市立大学2名、筑波大学1名、杏林大学2名、神戸大学1名、東京慈恵会医科大学1名）から9名の学生を受け入れた。診療科別の受入実績は、救急科4名、外科2名、集中治療部2名、産婦人科1名である。

3 課題

今後、各大学からのクリニカルクラークシップ受け入れ要請の増加が見込まれる。受け入れ要請があれば今後も可能な限り学生を受け入れていきたい。

6－2 院外からの研修受入れ（看護部）

1 データ

（1）研修受入れ数（添付資料参照）

ア 看護基礎教育実習

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受入れ総数	339名	347名	350名

イ 卒後教育実習

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受入れ総数	11名	11名	6名

（2）実習指導者研修

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
実習指導者研修修了者数※	42名	44名	54名

※看護師長、日本赤十字看護大学実習指導者研修は含まない。

2 成果と課題

（1）基礎教育実習と卒後教育実習の受入れ

ア 基礎教育実習は大学2校（日本赤十字看護大学、創価大学）と看護専門学校3校（神奈川県立よこはま看護専門学校、神奈川県立衛生看護専門学校、横浜市病院協会看護専門学校）を受け入れた。新型コロナウイルス感染の院内対応に準じて、感染対策を実施した。実習初日のオリエンテーション内容と運用の見直しを行い、部署間で統一した対応を行い、担当教員との連携を強化することで、実習でも学びが深められるよう支援を行った。

イ 卒後教育では、各大学院、教育機関から16名の実習生を受け入れ、全日程実習を実施することができた。実習生と関わることで各部署の看護や看護管理を振り返る機会を得ることができた。今後も積極的に実習生を受け入れていきたい。

（2）実習指導者の育成

令和6年度は、実習指導者講習会（長期）に8名派遣した。今後も長期実習指導者研修生が増員できるよう計画的な育成を目指す。日本赤十字看護大学フロンティアセンターの実習指導者研修は19名が受講できた。今後も教育の質向上を目指し育成を継続する。

（3）実習環境の整備

休憩室は、換気や除菌用アルコールタオルの常備等を継続し、感染予防対策に努めた。また、インターネット検索や資料作成が可能なパソコンやプリンターを整備するなど実習環境を整備した。

6－3 院外からの研修受入れ（薬剤部）

1 データ

研修名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
薬科大実務実習	15名	14名	15名	13名
学生版薬薬連携実習	10名	7名	7名	5名
アドバンスト研修	0名	1名	1名	1名

2 成果

薬科大学実務実習では、新しいコアカリキュラムのプログラムに沿って臨床現場に重点を置き実習を行ってきた。学生1名に対し実務実習指導薬剤師を2名配置し、臨床に則した形がとれている。

実務実習を受け入れている大学と連携し、実習期間終了後からのアドバンスト研修を実施し令和6年度も1名受け入れた。

また、学生時から薬薬連携を意識することを目的とし、中区薬剤師会会員薬局にて実習中の学生とともに薬薬連携実習を実施した。

その他、神奈川県病院薬剤師会実務者研修会の研修を3名受け入れている。

また、赤十字関連病院からの見学を適宜受け入れている。

3 課題

令和元年度から実務実習では、新しいコアカリキュラムでの実習が展開されており、対応できる形をめざしてきた。

今後は、さらに内容を充実させ、実習の場でしか得られないものを提供できるよう、指導薬剤師の質を向上させながら取り組んでいきたい。

6－4 院外からの研修受け入れ（リハビリテーション科部）

1 データ

リハビリテーション実習生受け入れ状況

令和4年度：	理学療法臨床実習生	2名	作業療法評価実習生	1名
	作業療法臨床実習生	2名	作業療法評価実習生	1名
令和5年度：	理学療法臨床実習生	2名	理学療法評価実習生	2名
	作業療法臨床実習生	2名	作業療法評価実習生	1名
	作業療法見学実習生	6名		
令和6年度：	理学療法臨床実習生	2名	理学療法評価実習生	2名
	作業療法臨床実習生	2名	作業療法評価実習生	1名
	作業療法見学実習生	2名		

2 成果

令和6年度も理学療法実習および作業療法実習を受け入れることができた。臨床実習では、神奈川県立保健福祉大学・横浜リハビリテーション専門学校・秋田リハビリテーション学院から4名、評価実習では国際医療福祉大学・帝京科学大学・神奈川県立保健福祉大学から3名、見学実習では横浜リハビリテーション専門学校から2名を受け入れた。

感染対策には引き続き十分な注意を払いながらも、急性期病院におけるリハビリテーション評価や治療については、実習期間を通して学ぶ機会を提供できた。

3 課題

実習生を受け入れる上で問題になるのが、実習指導者の時間的、精神的負担である。感染対策へ気を配る必要もあり、働き方改革を実践する中でのスタッフの負担と実習生への負荷量に配慮する必要がある。

令和6年度は実習指導者の負担軽減を目的に実習中のスケジュール表の改定や指導者以外のスタッフの関りを増やすなど運用を見直した。今後も運用を見直しながら実習指導者の負担軽減に努めていきたい。

また、厚生労働省から公布された理学療法士作業療法士養成施設指定規則の改正に対応するべく、臨床実習指導者研修会へは継続的に参加していく。

6－5 院外からの研修受入れ（救命救急センター）

1 データ

救急救命士・救急員の実習生受入数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
横浜市消防局	6人	6人	8人
海上保安本部	9人	12人	13人
陸上自衛隊	31人	31人	29人

2 成果

病院前救護に必要な医学的知識・技能及び救急・救助活動における総合的な対応能力の維持・向上を目的とし、救命救急士・救急員の実習生受入を行っている。また、厚生労働省が実施する救命救急センター充実段階評価で、「救急救命士の気管挿管または薬剤投与実習の受入れ」が評価項目に入っている、病院としても積極的に実習生受入れを行っている。

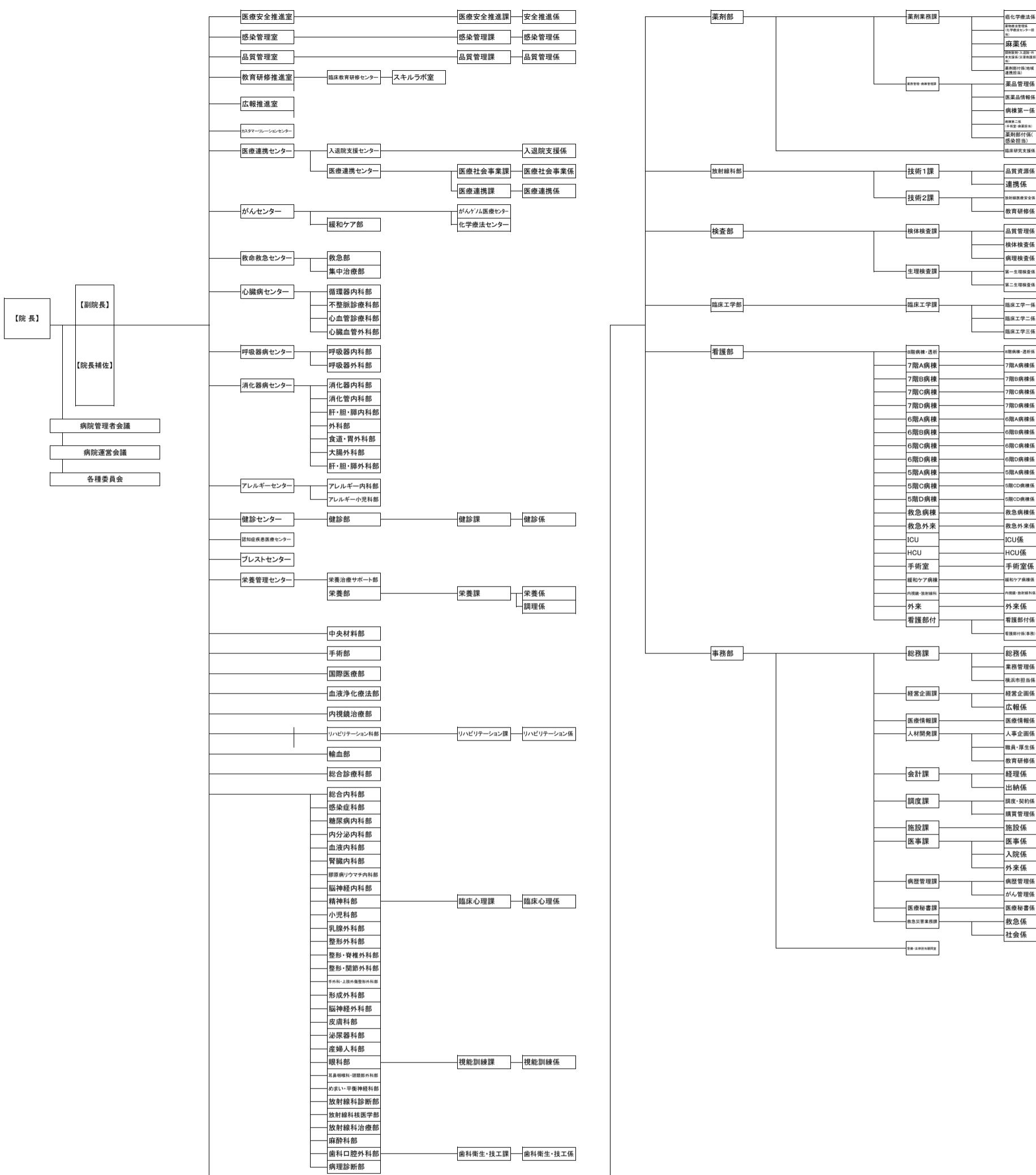
令和6年度は横浜市消防局、海上保安庁、陸上自衛隊から合計50名を受け入れ、救急救命士の教育ガイドラインや院実習実施要領等に基づき、当院の救命救急センターにおいて見学や実習を行った。

3 課題

当院は救急患者数が多く、横浜市消防局をはじめとした関係機関との連携が不可欠である。救急救命士の能力向上が市民の救命につながるため、今後も可能な限り実習生の受入を行っていきたい。

7 職員

横浜市立みなと赤十字病院 組織図 2024（令和6）年4月1日



7-2 職員配置状況

令和7年3月31日現在

職種		配置人員数	内訳			備考
			常勤	非常勤	派遣職員等	
管理部門	事務職員	239.0	110.0	22.0	107.0	常勤に看護師4名、横浜市職員1名含む
	技術職員	1.0	1.0	0.0	0.0	
	運転手	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ボイラー技師	0.0	0.0	0.0	0.0	
	電話交換手	2.0	0.0	0.0	2.0	
診療部門	医師	348.0	225.0	123.0	0.0	
	歯科医師	6.0	5.0	1.0	0.0	
看護部門	看護師	628.0	620.0	8.0	0.0	
	准看護師	0.0	0.0	0.0	0.0	
	看護助手	59.0	44.0	8.0	7.0	
	事務職員	23.0	2.0	0.0	21.0	
健診部門	看護師	4.0	4.0	0.0	0.0	
	事務職員	11.0	2.0	0.0	9.0	
連携部門	社会福祉士	7.0	7.0	0.0	0.0	
	精神保健福祉士	2.0	2.0	0.0	0.0	
	看護師	13.0	13.0	0.0	0.0	
	事務職員	15.0	6.0	1.0	8.0	
検査・医療技術部門	薬剤師	49.0	40.0	2.0	7.0	
	診療放射線技師	36.0	36.0	0.0	0.0	
	臨床検査技師	52.0	48.0	4.0	0.0	常勤に衛生検査技師1名含む
	理学療法士	18.0	18.0	0.0	0.0	
	作業療法士	10.0	10.0	0.0	0.0	
	言語聴覚士	5.0	4.0	1.0	0.0	
	マッサージ師	0.0	0.0	0.0	0.0	
	臨床工学技士	12.0	12.0	0.0	0.0	
	視能訓練士	2.0	2.0	0.0	0.0	
	歯科衛生士	3.0	3.0	0.0	0.0	
	臨床心理士	4.0	3.0	1.0	0.0	
	管理栄養士	14.0	14.0	0.0	0.0	
	栄養士	0.0	0.0	0.0	0.0	
	救急救命士	3.0	1.0	0.0	2.0	
	調理師	3.0	3.0	0.0	0.0	
	事務職員	12.0	1.0	0.0	11.0	薬剤部、放射線科部
その他		15.0	1.0	10.0	4.0	放射線科技術員 アレルギーセンター事務 プレストセンター事務、薬剤部技術員
合計		1596.0	1237.0	181.0	178.0	

8 施設管理

8－1 医療機器の整備状況

購入単価500万円以上のもの

	部門名	機器名称	用途	新規・更新
1	中央部門	放射線画像情報管理システム	診断用	更新
2	診療部門	術中神経モニタリングシステム	手術用	更新
3	中央部門	デジタルX線透視撮影装置	診断用	新規
4	中央部門	マルチスライスCT	診断用	更新
5	中央部門	大動脈バルーンポンプ [®]	治療用	更新
6	中央部門	術中イメージングシステム	手術用	新規
7	中央部門	腹腔鏡タワー	手術用	更新
8	中央部門	4K3D内視鏡システム	手術用	新規
9	中央部門	ナビゲーションシステム	手術用	新規
10	中央部門	カーボンフレーム	手術用	新規

8-2 施設設備改修報告

(令和6年度)

	部門名	施設・設備名称	面積(m ²)	用途	新規・修繕
1	病院棟	照明制御設備盤更新	-	院内の照明に関する照明制御設備が老朽化したため更新した。	修繕
2	病院棟	空調自動制御システム（空調中央監視装置）更新	-	院内の空調自動制御システムに関する空調設備が老朽化したため更新した。	修繕
3	病院棟	電話交換機設備本体更新	-	院内の電話に関する電話交換機設備が老朽化したため更新した。	修繕
4	エネルギーセンター棟	ガスエンジン発電機G-2ピストン総開放点検（E点検）	-	エンジンピストン部の部品交換が老朽化したため更新した。	修繕
5	エネルギーセンター棟	受変電設備（系統連携保護遮断器・保護遮断器）更新	-	電力会社と当院の発電機の受電を系統連携で繋ぐ役割が老朽化したため更新した。	修繕
6	エネルギーセンター棟	受変電設備変圧器用品（1系）更新	-	電力会社から受電した電力を降圧させて院内へ使用できる電源に変圧する変圧器用品が老朽化したため更新した。	修繕
7	エネルギーセンター棟	受変電設備（特高現場監視盤PLC）更新	-	停電が起きた際の電気の切り替え制御設備の特高現場監視盤PLCが老朽化したため更新した。	修繕

8-3 施設設備管理報告 法定及び自主点検業務

法定点検業務等	点検種別	周期	実施回数	令和6年度												関連法規及び保守管理基準
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
特定建築物	定期検査	1回/1～3年	1回/年							●						建築基準法
昇降機設備	定期検査	1回/年	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
自家用発電設備（コジェネ発電）	定期検査	1回/年	2回/年													電気事業法・消防法
ボイラー	性能検査	1回/年	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
第1種圧力容器	性能検査	1回/年	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
ゴンドラ（H29.12.5～休止中）	性能検査	1回/年	停止中													労働安全衛生法
第2種圧力容器	自主検査	1回/年	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
小型ボイラ設備	自主検査	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
簡易専用水道	定期検査	1回/年	1回/年													水道法
ガススタービン（ガス圧縮機）	定期検査	1回/3年	今年度該当なし													電気事業法※R3年実施次回R6年
消防設備	定期検査	2回/年	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	消防法
地下タンク貯藏所	定期検査	1回/3年	今年度該当なし													消防法※R3年実施次回R6年
避難はしご設備	自主点検	2回/年	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	消防法
医療pis設備	定期点検	4回/年	4回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	高圧力pis保安法
特定施設（水質測定）	定期点検	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	下水道法
ばいり煙測定	定期検査	2回/年	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	大気汚染防止法
特高受変電設備定期検査	定期検査	1回/年	1回/年													電気事業法
高压受変電設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年	1回/年													電気事業法
無停電電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年	1回/年													電気事業法
（非常用照明）	定期検査	(1回/年)	1回/年													電気事業法
直流水源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年	1回/年													電気事業法
電力中央監視設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年	1回/年													電気事業法※更新次年度のため簡易点検
建築設備定期検査	定期検査	1回/年	1回/年													建築基準法
受水槽・高架水槽定期清掃	定期検査	1回/年	1回/年													水道法
飲料水水質検査	定期検査	2回/年	2回/年													水道法
害虫定期駆除	定期検査	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	ビル管理法

機能・維持に関する保守管理等	管理種別	周期	実施回数	令和6年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
放送叫出装置	自主点検	2回/年	2回/年	●									●		消防法
ナースコール・インターホン設備	自主点検	2回/年	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーク一標準点検
昇降機設備	自主点検	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
冷凍機設備	自主点検	3回/年	3回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーク一標準点検
冷却塔設備	自主点検	2回/年	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検
空気調和設備	機能点検	2回/年	4回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検
空調自動制御設備	自主点検	1回/年	3回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーク一標準点検
チラード点検	定期点検	1回/年	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	フロン排出抑制法
各種水槽設備	清掃	1回/年	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	横浜市条例
検査系排水処理設備	定期点検	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーク一標準点検
汎排水処理設備	自主点検	1回/年													放射線障害防止法
自動ドア設備	自主点検	2回/年	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーク一標準点検
駐車場管制設備	自主点検	2回/年	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーク一標準点検
搬送設備	自主点検	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーク一標準点検
冷却塔補給水導注装置	自主点検	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検
厨房クリスティラーダ定期清掃業務	清掃	4回/年	4回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主管理
厨房クリストラップ定期清掃業務	清掃	6回/年	8回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	ビル管理法

その他の保守管理業務	管理種別	実施回数	実施回数	令和6年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
空調機等フィルター交換(洗浄)	洗浄	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	汚れが詰められたら交換
窓清掃	清掃	2回/年													汚れにより適宜行う
エチレンオキシド環境測定	定期点検	2回/年	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
ホルムアルデヒト作業環境測定	定期点検	2回/年	2回/年												労働安全衛生法

8-4 外部委託 (令和6年度)

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者 (会社名)	主管部署
1	食事療養提供業務	患者用給食の調理、給食材料管理補助、食器洗浄等衛生管理補助、配膳・下膳業務	富士産業株式会社	栄養課
2	中央材料室洗浄・滅菌業務、手術室サポート業務、内視鏡室洗浄・消毒業務	使用済器材の回収・洗浄・滅菌・供給業務、手術室術間清掃業務	日本ステリ株式会社	調度課
3	検体検査業務	検体検査業務	株式会社ビー・エム・エル	検査部
4	検体検査業務	検体検査業務	株式会社エスアールエル	検査部
5	検体検査業務	検体検査業務	株式会社L S I メディエンス	検査部
6	患者用ベッド洗浄業務	ベッド等の清拭・定期点検業務	株式会社柴橋商会	調度課
7	寝具賃貸借及び洗濯業務	患者用寝具・職員当直用寝具 賃貸借業務、洗濯全般業務	株式会社サンビームランドリー	調度課
8	白衣等リース業務	看護師、看護助手の白衣リース	株式会社柴橋商会	調度課
9	白衣等リース業務	医師、メディカルクラークの白衣のリース	株式会社サンビームランドリー	調度課
10	S P D物流管理サービス業務	医療材料の物流管理業務	株式会社ホスピタルパートナーズ	調度課
11	医薬品院内物流管理業務	購買管理補助業務、薬品在庫管理業務、配置定数薬の補充管理業務、搬送業務 等	東邦薬品株式会社	薬剤部
12	手術室コンサルティング業務	オペキットの供給、手術室の効率運営システム	株式会社ホギメディカル	調度課
13	心カテ室等における立会い業務	PM・ICD・CRT-D・CRT-P植込み、フォローアップ等	株式会社A P E X	調度課
14	医事関連業務	外来部門の計算・受付・クラーク業務及び保険請求関連業務	株式会社ソラスト	医事課
15	企画情報課（医療情報システム）関連業務	職員からの問合せ対応、マスタメンテナンス、操作訓練等	株式会社ソラスト	企画情報課
16	2階各科（センター）・健診センター関連業務、病棟クラーク業務	2階各科クラーク業務、健診センター業務、病棟クラーク業務	株式会社日本教育クリエイト	健診課、看護部、医事課
17	救急車運用等業務	医師の具体的指示及び包括的指示業務、救急車日常点検、教育訓練	株式会社パラメディック	救急災業課
18	統計業務	経営指標に係る統計、各種届出報告申請に係る統計、院内個別依頼統計業務	プライアルメディカルシステム株式会社	医療情報課
19	治験事務関連業務	治験事務局支援業務及び治験審査委員会事務局支援業務	ノイエス株式会社	薬剤部
20	院内保育所運営業務	職員子女の保育業務	株式会社ポピinz	総務課
21	施設管理	施設設備の運転及び点検業務	T M E S 株式会社	施設課
22	警備業務	院内外の警備業務	株式会社K S P	施設課
23	清掃業務	外回り外来部門・病棟・手術室・事務室等院内清掃業務	株式会社丸誠サービス	施設課
24	産業廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
25	一般廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
26	感染性廃棄物収集運搬処理業務	院内から出される感染性廃棄物の収集運搬及び処理業務	株式会社トキワ薬品化工	施設課
27	医薬品（医療ガス）供給業務	医療用液体酸素・医療用液体窒素・医療用酸素ガス等の供給業務	株式会社イワサワ	施設課
28	統計解析業務	A R M S 及び喘息日誌症例データ解析	小松研究事務所	アレルギーセンター
29	データ保管業務	診療録保管業務	株式会社寿製作所	企画情報課
30	緑地維持管理業務	院内緑地の剪定・除草・芝生刈り業務	株式会社愛花園	施設課
31	被ばく線量測定業務	ルクセルバッジ・リングバッジ測定	長瀬ランダウア株式会社	放射線科
32	医療廃棄物処理業務	医療廃棄物処理業務	横浜綿布工業株式会社	施設課
33	病棟病室床頭台・ランドリー管理業務	病棟病室床頭台（T V・冷蔵庫）・コインランドリー保守管理業務	株式会社パースジャパン	施設課

※派遣・保守に関する業務、倉庫借用に伴う業務を除く

9 経営報告

診療科	外来(243日)										入院(365日)										救急患者					
	新患者数				延患者数				1日平均		新入院数				退院数	延患者数				1日平均		在院日数				
	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	当年度	前年度	全 体	救急車	入院			
総合内科	511	406	105	25.9%	1,006	876	130	14.8%	4.2	3.6	374	251	123	49.0%	15	594	408	186	45.6%	1.6	1.1	3.0	3.1	484	424	467
糖尿病内分泌内科	512	505	7	1.4%	12,351	12,243	108	0.9%	51.0	50.4	374	432	-58	-13.4%	525	7,474	7,466	8	0.1%	20.5	20.4	13.1	12.0	111	98	108
血液内科	264	237	27	11.4%	6,391	6,316	75	1.2%	26.4	26.0	451	459	-8	-1.7%	463	8,724	8,480	244	2.9%	23.9	23.2	17.4	16.5	59	49	53
腎臓内科	280	257	23	8.9%	7,444	7,006	438	6.3%	30.8	28.8	311	277	34	12.3%	401	6,269	4,811	1,458	30.3%	17.2	13.1	14.7	13.0	100	83	90
膠原病リウマチ科	307	221	86	38.9%	10,324	10,006	318	3.2%	42.7	41.2	134	122	12	9.8%	226	4,210	3,494	716	20.5%	11.5	9.5	20.0	20.2	36	30	33
緩和ケア内科	5	0	5	0.0%	158	110	48	43.6%	3.2	2.2	1	0	1	0.0%	3	29	28	1	3.6%	0.1	0.1	5.2	5.2	0	0	0
呼吸器内科	1,037	1,009	28	2.8%	13,311	13,476	-165	-1.2%	55.0	55.5	1,152	1,109	43	3.9%	1,046	17,636	17,515	121	0.7%	48.3	47.9	13.1	13.1	810	689	777
消化器内科	2,021	1,987	34	1.7%	23,830	26,954	-3,124	-11.6%	98.5	110.9	2,378	2,101	277	13.2%	2,326	23,534	20,421	3,113	15.2%	64.5	55.8	9.3	9.1	1,052	782	985
循環器内科	1,709	1,640	69	4.2%	23,748	21,643	2,105	9.7%	98.1	89.1	1,961	1,824	137	7.5%	1,923	17,365	17,342	23	0.1%	47.6	47.4	6.6	7.1	757	628	617
脳神経内科	660	705	-45	-6.4%	7,414	8,138	-724	-8.9%	30.6	33.5	596	619	-23	-3.7%	646	9,171	11,007	-1,836	-16.7%	25.1	30.1	11.3	13.5	351	308	326
アレルギー科	232	301	-69	-22.9%	4,508	4,811	-303	-6.3%	18.6	19.8	38	47	-9	-19.1%	62	615	368	247	67.1%	1.7	1.0	10.3	6.1	25	20	22
小児科	2,993	3,138	-145	-4.6%	11,306	11,491	-185	-1.6%	46.7	47.3	1,167	967	200	20.7%	1,174	5,547	4,584	963	21.0%	15.2	12.5	4.2	4.2	2,100	1,016	438
外科	508	513	-5	-1.0%	9,258	8,313	945	11.4%	38.3	34.2	1,003	997	6	0.6%	1,039	9,676	9,209	467	5.1%	26.5	25.2	7.5	7.0	233	150	203
乳腺外科	481	469	12	2.6%	10,183	9,548	635	6.7%	42.1	39.3	313	279	34	12.2%	319	2,705	2,263	442	19.5%	7.4	6.2	7.2	7.4	35	18	20
呼吸器外科	23	25	-2	-8.0%	2,294	2,090	204	9.8%	16.2	14.7	87	85	2	2.4%	99	859	1,033	-174	-16.8%	2.4	2.8	5.0	6.5	6	5	5
心臓血管外科	219	193	26	13.5%	2,850	2,667	183	6.9%	20.1	18.8	268	259	9	3.5%	288	5,028	5,037	-9	-0.2%	13.8	13.8	7.1	7.6	68	63	63
脳神経外科	470	424	46	10.8%	2,881	2,918	-37	-1.3%	20.3	20.5	461	372	89	23.9%	435	7,278	7,030	248	3.5%	19.9	19.2	10.1	11.9	358	327	341
整形外科	2,238	2,003	235	11.7%	23,672	22,640	1,032	4.6%	97.8	93.2	1,310	1,295	15	1.2%	1,361	19,055	20,741	-1,686	-8.1%	52.2	56.7	12.5	13.4	379	318	319
形成外科	287	286	1	0.3%	2,817	3,040	-223	-7.3%	14.7	15.7	139	119	20	16.8%	160	2,417	2,384	33	1.4%	6.6	6.5	16.2	18.9	12	8	5
皮膚科	814	797	17	2.1%	8,613	8,587	26	0.3%	35.6	35.3	198	185	13	7.0%	204	2,026	2,303	-277	-12.0%	5.6	6.3	8.9	11.3	52	35	45
泌尿器科	772	800	-28	-3.5%	11,725	11,849	-124	-1.0%	48.5	48.8	835	942	-107	-11.4%	828	6,018	7,255	-1,237	-17.1%	16.5	19.8	7.1	7.4	111	83	102
産婦人科	1,080	1,242	-162	-13.0%	18,247	19,192	-945	-4.9%	75.4	79.0	898	926	-28	-3.0%	907	6,598	7,123	-525	-7.4%	18.1	19.5	6.9	12.3	428	68	287
眼科	404	394	10	2.5%	10,748	9,998	750	7.5%	44.4	41.1	360	324	36	11.1%	360	717	647	70	10.8%	2.0	1.8	1.0	1.0	4	2	1
耳鼻いんこう科	1,482	1,562	-80	-5.1%	12,906	13,217	-311	-2.4%	53.3	54.4	427	430	-3	-0.7%	431	3,494	3,604	-110	-3.1%	9.6	9.8	6.9	7.0	42	23	32
リハビリテーション科	2	1	1	100.0%	37	30	7	23.3%	0.4	0.3	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0
精神科	309	313	-4	-1.3%	11,171	11,030	141	1.3%	58.2	56.3	161	161	0	0.0%	218	8,012	7,688	324	4.2%	22.0	21.0	0.0	0.0	49	17	41
放射線診断科	776	550	226	41.1%	956	667	289	43.3%	0.0	41.7	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0
放射線治療科	18	17	1	5.9%	5,025	3,099	1,926	62.1%	20.8	16.1	0	12	-12	-100.0%	0	0	259	-259	-100.0%							

2024年度

診療科別患者数等管理数値

(単位: 診療収入、室料差額、入外合計額...千円、収入単価...円)

	外来診療収入								入院診療収入								入外合計額				手術					
	診療収入				収入単価				診療収入(室料差額除)				収入単価				室料差額									
診療科	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	2024年度累計	2023年度累計		
総合内科	17,405	18,644	-1,239	-6.6%	17,302	21,283	-3,981	-18.7%	52,923	40,858	12,066	29.5%	89,097	100,141	-11,044	-11.0%	2,565	1,317	72,894	60,819	12,075	19.9%	0	0	0	0
糖尿病内分泌内科	219,684	213,575	6,110	2.9%	17,787	17,445	342	2.0%	416,076	405,381	10,695	2.6%	55,670	54,297	1,373	2.5%	18,868	15,091	654,628	634,047	20,582	3.2%	0	0	0	0
血液内科	324,016	261,754	62,262	23.8%	50,699	41,443	9,256	22.3%	815,234	755,325	59,909	7.9%	93,447	89,071	4,376	4.9%	18,443	15,530	1,157,693	1,032,609	125,084	12.1%	0	0	0	0
腎臓内科	143,902	145,059	-1,157	-0.8%	19,331	20,705	-1,374	-6.6%	379,972	299,975	79,997	26.7%	60,611	62,352	-1,741	-2.8%	13,508	10,122	537,382	455,155	82,227	18.1%	109	105	680	711
膠原病リウマチ科	321,214	334,831	-13,617	-4.1%	31,113	33,463	-2,350	-7.0%	232,548	169,665	62,883	37.1%	55,237	48,559	6,678	13.8%	15,424	11,576	569,186	516,072	53,114	10.3%	0	0	0	0
緩和ケア内科	277	302	-25	-8.3%	1,752	2,744	-992	-36.2%	1,672	1,194	478	40.0%	57,662	42,655	15,007	35.2%	458	0	2,407	1,496	910	60.8%	0	0	0	0
呼吸器内科	308,295	358,578	-50,283	-14.0%	23,161	26,609	-3,448	-13.0%	1,042,397	1,048,319	-5,921	-0.6%	59,106	59,853	-746	-1.2%	73,163	69,341	1,423,855	1,476,238	-52,383	-3.5%	0	1	0	5
消化器内科	469,458	556,939	-87,480	-15.7%	19,700	20,663	-962	-4.7%	1,603,047	1,377,215	225,832	16.4%	68,116	67,441	675	1.0%	90,410	61,545	2,162,915	1,995,698	167,217	8.4%	3	4	27	15
循環器内科	316,839	273,326	43,513	15.9%	13,342	12,629	713	5.6%	3,181,720	2,954,370	227,349	7.7%	183,226	170,359	12,867	7.6%	52,167	58,071	3,550,726	3,285,767	264,959	8.1%	225	206	1,522	1,265
脳神経内科	336,113	284,996	51,117	17.9%	45,335	35,020	10,314	29.5%	627,989	669,648	-41,659	-6.2%	68,476	60,838	7,637	12.6%	22,173	28,722	986,275	983,366	2,909	0.3%	0	0	0	0
アレルギー科	47,268	49,035	-1,767	-3.6%	10,485	10,192	293	2.9%	32,358	21,975	10,383	47.3%	52,615	59,714	-7,099	-11.9%	1,296	836	80,922	71,846	9,076	12.6%	0	0	0	0
小児科	117,619	122,069	-4,450	-3.6%	10,403	10,623	-220	-2.1%	340,561	272,050	68,511	25.2%	61,396	59,348	2,048	3.5%	19,020	14,110	477,200	408,228	68,972	16.9%	0	0	0	0
外科	266,303	252,060	14,244	5.7%	28,765	30,321	-1,556	-5.1%	976,060	923,267	52,793	5.7%	100,874	100,257	617	0.6%	40,524	34,313	1,282,887	1,209,639	73,248	6.1%	793	753	5,164	4,840
乳腺外科	421,520	374,166	47,354	12.7%	41,394	39,188	2,207	5.6%	270,154	233,388	36,766	15.8%	99,872	103,132	-3,260	-3.2%	19,380	15,204	711,055	622,759	88,296	14.2%	283	255	1,902	1,647
呼吸器外科	58,096	46,399	11,697	25.2%	25,325	22,200	3,125	14.1%	136,945	142,174	-5,229	-3.7%	159,423	137,632	21,791	15.8%	4,399	5,712	199,439	194,284	5,155	2.7%	85	93	567	609
心臓血管外科	35,374	30,208	5,166	17.1%	12,412	11,326	1,085	9.6%	1,254,121	1,202,188	51,933	4.3%	249,427	238,671	10,756	4.5%	12,546	16,033	1,302,041	1,248,428	53,612	4.3%	287	273	1,841	1,735
脳神経外科	38,218	38,742	-524	-1.4%	13,265	13,277	-11	-0.1%	756,983	665,601	91,381	13.7%	104,010	94,680	9,330	9.9%	19,740	11,889	814,941	716,232	98,708	13.8%	209	163	1,150	1,031
整形外科	237,896	212,743	25,153	11.8%	10,050	9,397	653	6.9%	1,839,086	1,901,825	-62,740	-3.3%	96,515	91,694	4,821	5.3%	64,054	60,544	2,141,036	2,175,112	-34,076	-1.6%	1,634	1,652	10,511	10,336
形成外科	17,990	17,986	4	0.0%	6,386	5,916	470	7.9%	157,451	155,020	2,431	1.6%	65,143	65,025	118	0.2%	5,190	4,071	180,631	177,077	3,553	2.0%	341	353	2,159	2,210
皮膚科	47,034	47,431	-396	-0.8%	5,461	5,524	-63	-1.1%	112,808	114,057	-1,249	-1.1%	55,680	49,525	6,155	12.4%	7,634	7,631	167,476	169,118	-1,642	-1.0%	192	161	1,339	1,049
泌尿器科	258,011	248,899	9,113	3.7%	22,005	21,006	999	4.8%	515,487	569,002	-53,515	-9.4%	85,657	78,429	7,229	9.2%	24,752	33,163	798,250	851,064	-52,814	-6.2%	577	571	3,676	3,693
産婦人科	145,349	166,749	-21,400	-12.8%	7,966	8,688	-723	-8.3%	614,903	653,957	-39,054	-6.0%	93,195	91,809	1,386	1.5%	38,710	36,745	798,962	857,451	-58,489	-6.8%	320	375	2,204	2,329
眼科	123,969	103,432	20,537	19.9%	11,534	10,345	1,189	11.5%	84,917	73,671	11,245	15.3%	118,433	113,866	4,567	4.0%	2,052	1,633	210,938	178,736	32,202	18.0%	515	443	3,372	2,965
耳鼻いんこう科	177,617	167,820	9,797	5.8%	13,762</td																					

中央部門業務報告（放射線科部）

令和6年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般撮影（平日）	胸腹・骨等	4201	4186	4150	4667	4218	4099	4576	4333	4392	4086	4184	4441	51533
	マンマ	176	164	209	226	175	227	260	251	239	180	201	229	2537
	マンモーム	8	6	8	9	5	4	6	4	6	5	5	6	72
	骨密度	199	233	199	250	210	205	259	210	206	208	198	219	2596
	バノラマ	194	213	204	217	200	179	194	212	182	191	193	183	2362
	ポータブル	811	666	763	1041	909	671	660	809	955	954	783	848	9870
フィルム関係	取り込み	434	415	410	446	357	410	485	424	410	412	372	411	4986
	出力	943	558	486	614	630	518	540	544	563	672	547	806	7421
	計	6966	6441	6429	7470	6704	6313	6980	6787	6953	6708	6483	7143	81377

救急外来（平日）	一般撮影	173	180	152	210	188	159	199	186	218	165	188	207	2225
	救急CT	193	203	190	333	207	174	226	215	251	183	188	232	2595
	救急透視	0	0	0	3	1	0	1	0	0	3	1	2	11
	計	366	383	342	546	396	333	426	401	469	351	377	441	4831

一般/CT 病棟（休日・夜勤）	胸腹・骨等	79	109	70	86	75	85	72	104	115	128	112	124	1159
	CT	31	45	59	59	50	54	52	80	75	57	64	64	690
	ポータブル	326	400	391	518	411	393	387	449	585	653	446	456	5415
	計	436	554	520	663	536	532	511	633	775	838	622	644	7264

救急外来（休日・夜勤）	一般撮影	575	618	593	735	641	657	593	705	844	845	627	687	8120
	救急CT	634	721	684	883	763	720	710	813	996	912	751	815	9402
	救急透視				2	2	4	5	3	5	3	2	7	33
	MR I	36	30	43	71	38	44	48	54	46	50	48	47	555
	血管撮影	13	8	7	16	7	11	15	18	31	22	21	16	185
	TV 造影/透視	6	7	4	5	5	8	6	4	6	13	4	12	80
	その他	141	181	141	185	166	164	175	194	224	289	224	219	2303
	計	1405	1565	1472	1897	1622	1608	1552	1791	2152	2134	1677	1803	20678

手術室	ポータブル	207	214	216	264	244	216	252	238	220	189	192	199	2651
	術中イメージ	2	5	2	6	4	5	3	7	6	3	7	2	52
	計	209	219	218	270	248	221	255	245	226	192	199	201	2703

CT	外来	429	1480	1856	1595	1437	1441	1502	1388	1533	1610	1463	1499	17233
	入院	152	534	538	582	483	429	655	657	582	631	498	469	6210
	造影検査件数	181	631	739	657	627	553	677	595	635	664	540	571	7070
	計	581	2014	2394	2177	1920	1870	2157	2045	2115	2241	1961	1968	23443

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
M R I	外来	810	732	758	885	773	741	881	826	791	776	803	854	9630
	入院	114	116	109	128	128	120	141	133	133	131	104	123	1480
	造影検査件数	142	133	121	156	135	114	160	124	113	137	120	121	1576
	計	924	848	867	1013	901	861	1022	1083	924	907	907	977	11234
T V 室	胃 T V (術後含)	26	30	58	64	77	66	67	71	62	49	43	55	668
	注腸 (術後含)	1	1	2	0	0	2	2	1	0	0	1	2	12
消化器内科系	内視鏡併用検査	69	66	69	93	60	74	93	86	57	84	88	98	937
	造影/その他	22	14	5	23	18	12	19	8	17	12	31	19	200
外科系	内視鏡併用検査	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	造影/その他	11	28	17	30	29	30	16	22	16	19	24	18	260
泌尿器系	内視鏡併用検査	15	28	19	28	19	23	24	23	23	21	19	21	263
	造影/その他	23	14	22	25	25	22	30	30	25	17	16	23	272
整形系	ミエロ・ブロック/造影	6	11	16	16	3	5	9	7	3	5	5	10	96
	透視/その他	3	1	1	1	3	4	5	0	2	3	1	3	27
他診療科	造影/透視/その他	14	19	19	15	19	13	24	29	18	19	19	24	232
	計	190	212	228	297	253	251	289	277	223	229	247	273	2969
血管撮影室	頭腹部系	23	13	20	31	18	29	13	21	31	28	19	19	265
	心臓系	167	158	126	154	146	147	120	148	194	132	162	170	1824
	その他	22	25	24	26	27	20	19	26	22	21	21	18	271
	計	212	196	170	211	191	196	152	195	247	181	202	207	2360
ハイブリッド室	頭腹部系	2	4	2	8	2	3	5	2	7	5	5	4	49
	心臓系	24	22	25	22	21	21	18	25	30	22	20	20	270
	整形系	5	7	3	2	6	4	9	3	2	2	7	3	53
	その他	1	3	1	1	0	1	0	1	1	1	1	3	14
	計	32	36	31	33	29	29	32	31	40	30	33	30	386
R I	R I 計	121	117	109	134	119	124	122	119	122	114	102	127	1430
P E T · C T	P E T · C T 計	103	79	83	101	113	84	89	87	86	95	91	103	1114
治療	新規計画人数 計	29	37	27	22	21	23	27	22	25	29	22	19	303
	治療件数 計	649	742	582	586	366	438	600	526	638	537	389	379	6432

中央部門業務報告(検査部)

		令和6年度												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
検 体 檢 査	一般(ラヂオ)	件数(項目数)	9,046	9,046	9,153	10,708	9,517	9,527	9,287	9,273	10,224	9,901	9,731	11,984
	血清	件数(検体数)	32,224	33,081	32,650	38,411	34,085	32,012	34,257	33,947	36,336	37,357	32,086	23,936
	血液固(クリット)	件数(項目数)	8,160	8,825	8,826	10,768	9,361	8,560	9,467	9,624	10,014	10,384	8,823	9,117
	生化学(ラヂオ)	件数(項目数)	183,795	187,788	184,142	213,924	192,845	181,732	194,227	189,256	205,751	210,943	182,777	198,279
	免疫血清(ラヂオ)	件数(項目数)	8,986	8,986	8,704	10,148	8,593	8,435	9,287	9,938	8,686	8,373	8,722	109,120
	悪疾原(ラヂオ)	件数(項目数)	5,421	5,461	5,573	6,551	5,756	5,561	6,010	5,734	6,273	6,334	5,425	5,770
	一様細菌	件数(検体数)	1,740	1,683	1,752	1,754	2,039	1,403	1,179	1,432	1,779	2,010	2,302	1,753
	血液ガス(ラヂオ)	件数(検体数)	1,536	1,444	1,597	1,694	1,533	1,442	1,495	1,627	1,854	1,947	1,576	1,687
	アレルギーセンター(検体数)	件数(項目数)	59	75	117	129	117	117	141	137	158	130	132	133
	合計	件数	251,158	256,359	255,468	284,075	265,988	248,789	285,350	264,246	282,758	289,944	250,455	286,127
心電図	心電図	件数	2,949	2,964	2,944	3,295	2,953	2,839	3,091	3,129	3,357	3,245	2,834	3,137
	負荷心電図	件数	6	7	13	14	27	13	14	6	13	18	28	19
	ホルタ一心電図	件数	149	187	159	141	110	122	139	113	110	104	145	138
	血圧脈波検査	件数	120	126	122	134	129	21	29	21	28	20	101	110
	自律神経検査	件数	35	16	37	34	0	0	0	0	0	0	27	28
	心肺運動負荷(CPX)	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	呼吸機能	件数	283	342	348	389	372	336	391	365	343	320	318	320
	筋電図検査	件数	8	6	3	7	6	3	5	9	11	7	3	7
	脳波	件数	61	58	66	65	51	61	64	70	68	60	65	75
	神経生理検査	件数	76	63	45	60	61	43	50	44	68	66	54	745
生理 検 査	OAE	件数	47	50	47	59	44	46	64	55	49	39	51	33
	在流量測定	件数	1	1	1	0	2	2	1	0	2	2	1	12
	SPP	件数	3	6	3	3	7	5	3	6	8	6	3	59
	耳鼻科検査	件数	725	636	592	707	636	641	728	542	628	674	653	627
	心エコー	件数	772	764	949	742	696	825	750	787	716	685	711	9,983
	その他エコー	件数	940	988	965	1,111	1,025	995	1,096	1,020	1,014	891	915	966
	心カテーテル	件数	172	156	128	159	151	117	137	151	185	148	160	171
	アレルギーセンター(呼吸器)	件数	193	246	215	296	249	286	286	229	190	218	215	239
	合計	件数	6,540	6,630	6,459	7,331	6,692	6,289	6,087	7,028	6,987	7,047	6,880	6,191
病理 検 査	組織診断	件数	678	632	601	700	556	587	677	631	610	565	603	649
	迅速診断	件数	33	29	27	31	25	26	33	31	32	22	22	23
	細胞診断	件数	392	401	385	381	421	403	450	412	415	370	351	387
	その他	件数	71	81	55	70	37	58	70	44	54	59	50	67
	病理解剖	件数	0	0	0	1	0	3	1	2	0	2	3	2
	合計	件数	1,174	1,143	1,088	1,183	1,039	1,077	1,231	1,097	1,111	1,018	1,029	1,122
	血液型	件数	736	776	714	859	712	724	742	738	803	770	682	735
	不規則抗体	件数	732	782	703	852	711	756	775	717	783	789	670	696
	クロスマッチ	件数	411	395	390	479	437	391	421	373	421	423	385	419
	直接・間接クームズ	件数	41	58	50	44	30	41	38	47	29	35	35	506
輸 血 關 連 檢 查	輸血副反応	件数	9	14	8	14	16	12	8	3	17	14	13	135
	自己血	件数	0	6	0	0	0	2	0	4	0	0	0	12
	血液交換	件数	10	2	1	5	15	11	0	0	0	21	0	86
	合計	件数	1,938	2,033	1,886	2,287	1,935	1,918	1,988	1,986	2,025	2,081	1,806	2,986
	Ir-RBC	件数	864	676	666	768	698	658	678	556	884	712	678	622
	FFP	件数	1,230	363	429	732	1,308	321	1,032	297	633	258	1,596	324
	Ir-PC	件数	1,040	740	1,335	1,735	920	790	1,160	810	1,370	720	930	615
	合計	単位	3,134	3,779	2,430	3,235	2,926	1,769	2,870	1,663	2,887	1,680	3,204	1,561
	院内検査業務委託	件数(項目数)	72,655	77,032	80,128	91,620	85,039	73,179	86,444	84,976	91,633	77,989	84,490	90,283
	外院検査業務委託	件数(項目数)	11,058	11,279	11,439	12,141	11,369	10,555	10,882	11,445	10,224	10,344	12,285	134,330
委託業務	心臓カテーテル検査	件数	3名	3名	3名	1名								
	心臓カテーテル検査	件数	1名											
	心臓カテーテル検査	件数	1名											
診療通報		心臓カテーテル検査に3名、耳鼻科に1名アレルギーセンターに1名、それぞれ検査技師を派遣している 週3回アレルギン測定の為、アレルギーセンターに追加で名前を譲りしている(最大4名) 12月から心肺運動負荷試験を開始した 今年度より検査負荷試験を追加した												

中央部門業務報告（処方箋枚数）

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院 処方	11,790	11,537	11,853	14,031	12,857	11,874	12,099	12,164	14,710	13,745	11,950	14,440	153,050
入院 注射	10,410	10,027	10,689	12,812	12,027	9,994	10,150	10,881	11,739	13,038	10,817	11,022	133,606
外来 処方	37	38	34	39	32	34	43	36	35	34	32	33	427
外来 時間外処方	391	477	452	539	503	448	428	463	530	498	431	458	5,618
外来 注射	2,423	2,189	2,273	2,739	2,448	2,148	2,262	2,424	2,769	2,688	2,586	2,317	29,266
院外処方箋	9,983	10,209	9,485	10,611	9,578	9,708	10,537	9,486	10,364	10,067	9,168	9,959	119,155
抗がん剤調製件数	588	659	540	736	689	666	649	622	600	611	527	600	7,487
TPN調製件数	10	2	3	36	35	35	12	47	12	1	4		197
薬剤管理指導算定件数	1,966	1,957	1,824	2,212	2,012	1,909	2,069	2,022	2,031	2,037	1,892	2,060	23,991
薬剤管理指導麻薬加算	24	21	19	42	28	23	30	34	41	36	31	29	358
退院時指導算定件数	36	42	38	35	35	42	45	43	34	36	33	150	569
がん指導管理料\算定件数	34	26	26	27	15	17	12	9	17	16	8	16	223
特定薬剤治療管理料2算定件数	11	16	13	16	13	15	15	13	14	18	14	13	171
連携充実加算算定件数	48	62	44	64	61	54	57	71	40	57	37	43	638

中央部門業務報告（栄養課）

令和6年度

		令和6年度																																					
		4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			合計	
	件数																																						
一般食	件数	22,164	22,329	22,938	26,759	25,606	22,693	21,567	21,237	23,809	25,169	21,372	23,919	279,562																									
治療食	件数	11,114	11,150	11,207	11,882	11,943	10,374	10,815	12,734	13,009	14,223	13,020	13,194	144,665																									
調乳	件数	560	428	356	607	421	490	700	496	634	317	399	483	5,891																									
栄養相談	件数	366	378	391	437	406	399	449	465	517	522	486	553	5,369																									
合計	件数	34,204	34,285	34,892	39,685	38,376	33,956	33,531	34,932	37,969	40,231	35,277	38,149	435,487																									

中央部門業務報告（リハビリテーション科部）

令和6年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
リハビリ	理学療法	件数	4,185	4,031	4,095	4,355	4,088	3,502	3,661	3,583	3,818	4,059	3,397	3,566
	作業療法	件数	1,180	1,195	1,451	1,547	1,429	1,120	1,187	1,166	1,384	1,406	1,193	1,418
	言語聴覚療法	件数	822	859	741	888	840	715	780	707	861	737	525	533
	合計	件数	6,187	6,085	6,287	6,790	6,357	5,337	5,628	5,456	6,063	6,202	5,115	5,517
														71,024

中央部門業務報告(内視鏡室)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
上部消化管内視鏡 (内ドック件数)	6,002 2,115	4,785 1,805	5,462 2,030	5,989 2,157	5,920 2,179	5,866 2,217
下部消化管内視鏡 (内ドック件数)	2,697 145	2,122 101	2,477 130	2,517 141	2,660 144	2,505 158
気管支鏡	126	95	87	134	158	184
ERCP	481	371	370	411	572	572
超音波内視鏡	88	226	224	154	162	333

中央部門業務報告（透析室）

		令和6年度												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
透析	血液浄化療法 件数	341	359	282	312	356	216	285	295	346	366	297	318	3,773

中央部門業務報告（手術室）

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
全身麻酔	345	345	336	407	362	358	383	386	366	381	360	372	4,401
局所麻酔	172	159	166	179	161	130	187	165	159	170	162	152	1,962
脊椎麻酔	22	14	10	19	19	14	17	21	8	16	21	23	204
脊椎・硬膜外併用	14	14	6	11	6	6	12	10	15	5	9	4	112
合計	553	532	518	616	548	508	599	582	548	572	552	551	6,679

9-3 決算書

損益計算書（令和6年度）

収 益	予算(A)	R6年決算(B)	R5年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	対昨年度増減率
みなと赤十字病院事業収益	23,059,659,000	24,038,059,322	23,036,310,441	978,400,322	1,001,748,881	4.35%
医業収益	22,323,039,000	23,230,092,216	22,059,000,185	907,053,216	1,171,092,031	5.31%
入院収益	16,444,304,000	17,259,989,079	16,290,739,189	815,685,079	969,249,890	5.95%
患者延べ数(人)	184,108	188,658	182,525	4,550	6,133	3.36%
1日平均(人)	504	517	499	12	18	3.64%
診療単価(円)	89,319	91,488	89,252	2,169	2,236	2.51%
病床利用率(%)	79.56%	81.53%	78.66%	-0.30%	3.01%	3.64%
平均在院数(日)		9.1	9.5		-0.40	-4.21%
外来収益	5,021,614,000	5,132,116,076	4,985,729,344	110,502,076	146,386,732	2.94%
患者延べ数(人)	279,818	282,558	280,715	2,740	1,843	0.66%
1日平均(人)	1,152	1,163	1,155	11	8	0.66%
診療単価(円)	17,946	18,163	17,761	217	402	2.26%
室料差額収益	506,270,000	557,686,560	501,213,480	51,416,560	56,473,080	11.27%
保健予防活動収益	281,585,000	307,689,779	289,695,330	26,104,779	17,994,449	6.21%
受託検査・施設利用収益	8,100,000	7,468,700	8,112,450	-631,300	-643,750	-7.94%
その他の医業収益	115,007,000	46,544,103	44,090,602	-68,462,897	2,453,501	5.56%
保険等査定減	-53,841,000	-81,402,081	-60,580,210	-27,561,081	-20,821,871	34.37%
医業外収益(医療社会事業収益含む)	736,620,000	805,810,588	977,310,256	69,190,588	-171,499,668	-17.55%
受取利息	634,000	379,878	463,769	-254,122	-83,891	
本部繰入金	4,500,000	4,060,076	4,640,000	-439,924	-579,924	-12.50%
他会計繰入金	0	5,559,582	0	5,559,582	5,559,582	
運営費補助金等収益	354,400,000	361,268,913	514,781,433	6,868,913	-153,512,520	-29.82%
施設設備費補助金等収益	81,160,000	88,371,539	111,018,467	7,211,539	-22,646,928	-20.40%
患者外給食収益	0	0	0	0	0	
その他の医業外収益	295,926,000	346,170,600	346,406,587	50,244,600	-235,987	-0.07%
特別利益	0	2,156,518	0	2,156,518	2,156,518	
固定資産売却益	0	1,555,458	0	1,555,458	1,555,458	
貸倒引当金戻入益	0	0	0	0	0	
その他前期損益修正益	0	0	0	0	0	
その他特別利益	0	601,060	0	601,060	601,060	

費 用	予算(A)	R6年決算(B)	R5年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	対昨年度増減率
みなと赤十字病院事業費用	22,774,077,000	23,259,580,820	22,993,808,643	485,503,820	265,772,177	1.16%
医業費用	22,441,925,000	22,942,761,596	22,648,389,798	500,836,596	294,371,798	1.30%
材料費	6,455,822,000	6,960,072,399	6,529,857,862	504,250,399	430,214,537	6.59%
医薬品費	2,734,572,000	2,935,410,771	2,750,301,398	200,838,771	185,109,373	6.73%
診療材料費	3,484,626,000	3,776,794,763	3,523,772,262	292,168,763	253,022,501	7.18%
給食材料費	140,635,000	155,012,822	140,195,843	14,377,822	14,816,979	10.57%
医療消耗備品費	91,524,000	88,886,408	112,617,339	-2,637,592	-23,730,931	-21.07%
棚卸減耗損・評価損	4,465,000	3,967,635	2,971,020	-497,365	996,615	33.54%
給与費	10,573,760,000	10,231,777,642	10,920,876,056	-341,982,358	-689,098,414	-6.31%
委託費	2,058,521,000	2,201,018,085	2,074,868,391	142,497,085	126,149,694	6.08%
設備関係費	2,467,226,000	2,568,215,175	2,261,930,810	100,989,175	306,284,365	13.54%
減価償却費	1,107,925,000	1,019,610,480	958,920,092	-88,314,520	60,690,388	6.33%
器機賃借料	108,705,000	167,011,345	110,186,573	58,306,345	56,824,772	51.57%
指定管理者負担金他	680,646,000	684,915,385	681,882,760	4,269,385	3,032,625	0.44%
修繕費	207,213,000	209,581,093	151,565,755	2,368,093	58,015,338	38.28%
器機保守料	361,443,000	486,196,562	358,644,642	124,753,562	127,551,920	35.56%
その他	1,294,000	900,310	730,988	-393,690	169,322	23.16%
研究研修費	37,101,000	65,063,980	55,362,552	27,962,980	9,701,428	17.52%
経費	849,495,000	916,614,315	805,494,127	67,119,315	111,120,188	13.80%
通信費	24,660,000	28,402,610	26,437,631	3,742,610	1,964,979	7.43%
消耗品費	73,250,000	101,895,016	80,541,510	28,645,016	21,353,506	26.51%
水道光熱費	500,000,000	538,558,010	467,293,227	38,558,010	71,264,783	15.25%
賃借料	56,000,000	62,555,668	54,680,291	6,555,668	7,875,377	14.40%
租税公課	34,546,000	17,232,061	29,103,077	-17,313,939	-11,871,016	-40.79%
その他	161,039,000	167,970,950	147,438,391	6,931,950	20,532,559	13.93%
医業外費用(医療奉仕費用含む)	332,152,000	314,508,253	338,329,897	-17,643,747	-23,821,644	-7.04%
支払利息	871,000	1,141,947	2,302,156	270,947	-1,160,209	-50.40%
患者外給食用材料費	1,200,000	1,209,266	1,118,340	9,266	90,926	8.13%
看護師等委託養成費	16,400,000	17,800,000	12,000,000	1,400,000	5,800,000	48.33%
診療費減免額	0	0	4,813,290	0	-4,813,290	-100.00%
本部繰出金	21,814,000	19,637,054	17,767,505	-2,176,946	1,869,549	10.52%
他会計繰出金	1,300,000	4,433,808	1,742,587	3,133,808	2,691,221	154.44%
退職給付債務変更時差異	0	0	0	0	0	
その他医業外費用	290,567,000	270,286,178	298,586,019	-20,280,822	-28,299,841	-9.48%
特別損失	0	2,310,971	7,088,948	2,310,971	-4,777,977	-67.40%
固定資産売却損	0	0	0	0	0	
固定資産除却損	0	2,310,971	7,088,948	2,310,971	-4,777,977	-67.40%
前期損益修正損	0	0	0	0	0	
その他特別損失	0	0	0	0	0	
法人税等	0	0	0	0	0	

経常損益(特別収支を除いたもの)	285,582,000	778,632,955	49,590,746	493,050,955	729,042,209	1470.12%
医業損益	-118,886,000	287,330,620	-589,389,613	406,216,620	876,720,233	-148.75%
純損益	285,582,000	778,478,502	42,501,798	492,896,502</		

貸 借 対 照 表

令和7年 3月31日

(施設名) 横浜市立みなと赤十字病院

(単位:円)

資産の部				負債及び基金の部		
1. 流動資産				1. 流動負債		
現金		16,571,216		買掛金	1,142,996,064	
預金		1,386,915,960		未払金	1,600,104,389	
医業未収金	4,100,967,371			短期借入金	100,000,000	
貸倒引当金	58,934,826	4,042,032,545		未払費用	96,466,964	
未収金		95,581,457		未払法人税等	0	
有価証券		0		前受金	2,805,000	
医薬品		59,959,860		預り金	19,113,598	
診療材料		0		職員預り金	74,381,823	
給食用材料		2,108,194		前受収益	0	
貯蔵品		59,811		賞与引当金	628,510,138	
前渡金		0		資産除去債務	0	
前払費用		40,013,302		その他の流動負債	109,857,622	
未収収益		3,395,265		流動負債合計		3,774,235,598
短期貸付金		0				
繰延税金資産		0	2. 固定負債			
その他の流動資産		190,733,358		長期借入金	100,000,000	
流動資産合計			5,837,370,968	長期未払金	17,276,354	
2. 固定資産				預り出資金	0	
(1) 有形固定資産				退職交付受入金	0	
建物	128,259,810			退職給付引当金	4,424,320,862	
建物減価償却累計額	42,781,392	85,478,418		医療訴訟引当金	0	
建物付属設備	1,900,785,381			長期前受補助金等	324,420,708	
建物付属設備減価償却累計額	696,555,074	1,204,230,307		資産除去債務	0	
構築物	20,522,740			その他の固定負債	0	
機器物減価償却累計額	17,528,304	2,994,436		固定負債合計		4,866,017,924
医療用器械備品	8,090,979,071			負債合計		8,640,253,522
医療用器械備品減価償却累計額	6,488,304,124	1,602,674,947				
その他の器械備品	1,776,619,974		3. 基本金		15,986,453	
その他の器械備品減価償却累計額	1,603,140,548	173,479,426				
車両	1,615,550			補助金等		
車両減価償却累計額	1,228,491	387,059		本社交付金	0	
放射性同位元素	0			支部繰入金	0	
放射性同位元素減価償却累計額	0	0		その他の繰入金	0	
その他の有形固定資産	66,871,500			補助金	0	
その他の有形固定資産減価償却累計額	65,053,978	1,817,522		寄付金	54,040,000	
土地		0		固定資産再評価益(損)金	2,566,395	
建設仮勘定		0		固定資産処分益(損)金	0	
有形固定資産合計		3,071,062,115	4. 補助金等合計			56,606,395
(2) 無形固定資産						
借地権		0		利益剰余金		
ソフトウェア		61,084,271		当期未処分利益(損失)	3,972,070,273	
その他の無形固定資産		9,625	5. 利益剰余金合計			3,972,070,273
無形固定資産合計		61,093,896		有価証券評価差額金	0	
(3) その他の資産				純資産合計		4,044,663,121
有価証券		100,000,000				
長期貸付金		65,400,000				
預金		0				
長期未収金		0				
長期前払費用		3,762,728				
施設整備準備積立金		0				
病院建物建設資金出資金		885,007,910				
病院財政調整事業資金出資金		384,711,837				
出資金		217,850				
退職拠出金		2,276,279,289				
前払年金費用		0				
預託金		10,050				
繰延税金資産		0				
その他の固定資産		0				
その他の資産合計		3,715,389,664				
固定資産合計			6,847,545,675			
資産合計			12,684,916,643	負債及び純資産合計		12,684,916,643

令和6年度キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

	金額
1. 業務活動によるキャッシュ・フロー	
税引前当期純利益	778,478,502
減価償却費	1,026,078,728
所有有形固定資産減価償却費	938,149,094
リース有形固定資産減価償却費	71,095,397
所有無形固定資産減価償却費	16,834,237
リース無形固定資産減価償却費	0
長期前払費用減価償却費	0
貸倒引当金の増減	26,915,887
賞与引当金の増減	120,896,358
医療訴訟引当金の増減	0
退職給付引当金の増減	-1,221,014,281
退職拠出金の増減	-140,346,276
前払年金費用の増減	0
退職交付受入金の増減	0
その他の引当金の増減	0
施設設備補助金等収益	-94,839,799
受取利息	-379,878
支払利息	1,141,947
有形固定資産売却損	0
有形固定資産除却損	2,446,511
無形固定資産売却損	0
無形固定資産除却損	0
前期損益修正損	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別損失	0
有形固定資産売却益	-1,555,458
無形固定資産売却益	0
前期損益修正益	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別利益	0
医業未収金の増減	-283,761,709
未収金の増減	63,913,298
医薬品の増減	11,461,511
診療材料の増減	0
給食用材料の増減	-26,044
貯蔵品の増減	-190
前渡金の増減	0
前払費用の増減	-2,544,034
未収収益の増減	-277,251
その他流動資産の増減	-34,507,572
買掛金の増減	-63,558,783
未払金の増減	171,103,770
未払費用の増減	18,173,918
前受金の増減	0
預り金の増減	3,368,110
職員預り金の増減	-27,957,768
前受収益の増減	0
その他の流動負債の増減	-31,495,958
その他	17,200,000
小計	338,913,539
利息の受取額	380,224
利息の支払額	-1,141,947
法人税等の支払額	0
業務活動によるキャッシュ・フロー (A)	338,151,816

令和6年度キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

2・投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	0
定期預金の払戻による収入	0
有価証券の取得による支出	0
有価証券の償還等による収入	0
所有有形固定資産の取得による支出	-1,122,337,029
所有有形固定資産の売却による収入	1,555,460
所有無形固定資産の取得による支出	-19,099,447
所有無形固定資産の売却による収入	0
長期前払費用の取得による支出	-3,730,058
施設設備補助金等の受入による収入	96,626,267
短期貸付金の増減	0
長期貸付による支出	-18,600,000
長期貸付金の回収による収入	7,200,000
病院建物建設資金出資金の払込による支出	-39,706,200
病院建物建設資金出資金の返還による収入	0
病院財政調整事業資金出資金の払込による支出	-8,823,600
病院財政調整事業資金出資金の返還による収入	0
出資金の払込による支出	0
出資金の返還による収入	0
預託金の預入による支出	0
預託金の払戻による収入	0
その他の固定資産による支出	0
その他の固定資産による収入	0
その他	-205,668
投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	-1,107,120,275
3・財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の増減	0
長期借入による収入	100,000,000
長期借入金の返済による支出	-288,800,000
リース債務未払金の返済による支出	-71,092,159
預り出資金の受入による収入	0
預り出資金の払戻による支出	0
その他の固定負債による支出	0
その他の固定負債による収入	0
財務活動によるキャッシュ・フロー (C)	-259,892,159
4・現金及び現金同等物の増加額 (A+B+C)	-1,028,860,618
5・現金及び現金同等物期首残高	2,432,347,794
6・現金及び現金同等物期末残高	1,403,487,176
チェック	0

※ 病院収益合計	24,038,059,322
※ 病院費用合計	23,259,580,820
※ 法人税等計	0